

シルバー通信 設立 20 周年記念特集号



シルバーアドバイザー憲章

私たち、シルバーアドバイザーは、永年にわたって
貴重な知識や経験、技術を培ってきたことに高い誇りを持ち、
絶えず自らの生き甲斐の高揚につとめます。

大阪府シルバーアドバイザー
連絡協議会

設立 20周年の節目に際して

大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会
理事長 和佐 義顕

大阪府主催のシルバーアドバイザー養成講座は、昭和63年に開設され、その修了生が地域活動の推進役として、その連絡調整機能を持つ組織を立ち上げ「大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会」(略称 府SA連協)が誕生しました。設立時、会員数268名、支部数15でしたが、20年後の現在は、会員数1032名、地域SA数23地区と増加してその輪は、広がっております。この間、色々なことがありました。講座の専攻コースも時代の流れに呼応して、ITを取り入れるなど変遷を重ね、平成16年からは、南部講座の新設がありました。

一方、協議会内部では、大阪府との協働委託事業部門のNPO化が検討され、「NPO法人シルバーアドバイザー・ネット大阪」として独立するという新たなる道に進んでいきました。平成19年からは、北部・南部の両講座を統合して、教室も大阪谷町の大阪府社会福祉会館に移りました。その講座も大阪府の財政難から平成21年3月をもって廃止されることになりましたが、4月からは、新しく「NPO法人大阪府高齢者大学校」として、官から民へと講座の理念も継承されて、未永く期待に沿って行ってもらいたいと思います。私達も社会貢献活動の実践部隊として協力、支援してまいります。

ところで、ここ数年SA連協を取



り巻く環境の変化の中、講座修了生の受け皿として、私達は、設立以来、SA理念を諸先輩より引継ぎ、一貫して今日まで各地域での地道な活動に生かしてまいりました。急速に進む高齢化社会の中であって、今後も私達の果たす役割に期待されるところが多い

と思います。しかし、まだSAの知名度も低い地区もありますが、ホームページの活用等による広報活動や地域の行政側は勿論、社会福祉協議会等の関係機関との協調・協働関係を構築しながら、更に一層の知名度の向上に努める所存です。また、多様化する価値観を共有しつつ、当協議会の目的に沿った実践活動を強力に推進してまいります。

その為にも、節目の今年度からは、連協全体の連帯感、一体感を育み、各地区同士の連携等を図るべくブロック交流活動を取り入れました。これが、地域活動の活性化に寄与できれば、幸いです。これまでの活動を検証しつつ、地域社会のニーズに応えるために、一層の努力をしていきたいと思っております。今後とも、大阪府をはじめ関係諸団体のご支援、ご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

最後に、今回の記念誌発刊に際して、大阪府、各団体様をはじめ、連協及び各地区SAの歴代の役員様各位他、多くの方々にご多大なるご協力を頂き、厚くお礼申し上げます。今後の皆様方のご健勝とご多幸を祈念しまして、ご挨拶といたします。

設立20周年を祝して

大阪府知事 橋下 徹

大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会が発足20周年を迎えられましたことに心からお慶び申し上げます。シルバーアドバイザー養成講座の第1期生の皆様が、平成2年の発足から20年間、ボランティア活動、地域福祉の推進に積極的に取り組んでこられましたことに心から敬意を表します。

大阪府においては厳しい財政状況の中、シルバーアドバイザー養成講座等の事業を20年度末で廃止しましたが、講座の灯を消さないという皆様方の熱意により「NPO法人大阪府高齢者大学校」が設立され、先駆的なシニアによる公共的事業として自主的に運営されており、大変感謝しております。

私は、行政のあり様が大きく変革する現在にあって「地域主権」「地域の自立的経営」が最も重要なキーワードと考えています。このため、地域の強みや、ストックを最大限活用して、地域のガバナンス、自立的経営のために何をすべきかをしっかりと考えて行動してまいります。



一方大阪府では、平成26年度には高齢化率が25%を超える見込みです。高齢者の不安や孤独が高まる中、高齢者が生きがいを持ちながら、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、市町村や、関係機関と緊密に連携し、地域やNPO団体等の皆様とともに、「ふれあい支え合う明るく活力ある高齢社会」の実現にむけ、全力で取り組んでまいりますので、一層のご理解とご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

とりわけ、大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会の皆様方には、府内全域で活動の輪を拡げながら、自身の知識や経験を活かし、仲間作り、世代間交流、地域福祉の推進に取り組まれ、大阪の活力の源として重要な役割を担われるものと、大いに期待しております。

発足20周年を契機としまして、ますますのご活躍を祈念いたしますとともに、皆様方のご健康、ご多幸をお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

平成22年3月

S A連協も 20 歳 いよいよ出番です

NPO 法人大阪府高齢者大学校
理事長 長井 美知夫

今年も飛躍の新しい出発の年です

連協は 20 歳を迎えました。人間で言えば成人式の年です。人は毎年、年輪を重ねますが、その何年かをまとめると節目ができます。これまでの 20 年間には色々な節目があったとおもいますが、今の時代は明治維新以来とも言われる大きな節目の変化が始まっています。

これから先の永い人生、何が起こっても不思議ではない社会を、しっかりと見据え連協として、アクティブシニアとして豊かに人生を生き抜いていきましょう。

大阪でも変化が起こっています

昨年、橋下知事が誕生すると大阪では全国に先駆けて激震が走りました。一昨昨年、夕張市が倒産したというニュースが駆け巡り、借金と赤字に苦しむ全国の地方自治体が驚愕しました。

殆どの自治体が怯えているなかで、橋下知事は財政改革として大胆な手を打ちました。

その影響は大きく、外郭団体、文化団体、NPO など、府の財政に繋がっていたところは大打撃を受け、大阪府高齢者大学も廃校の危機に見舞われました。

NPO 立大阪府高齢者大学校の誕生

この危機に臨み、実行の受け皿として私たちは連協をはじめとする同窓会の皆さんと協働して NPO 法人を設立し

ました。

昨年四月には、それまで大阪府からの委託を受けて経営してきたファイン財団から事業を受け継ぎ開講しました。しかし民営化のため受講料を倍額にせざるを得ず規模を半数にしましたが、有難いことに応募者は平年なみにありました。開講後の授業は全体として順調に推移しています。

この四月よりは新しい挑戦を始めます

この四月よりは、三月に卒業する人を同窓会への入会を奨励するとともに、継続学習を希望する人のために新しいシステムとして実践研究部(各科で編成)を立ち上げます。これは連協同窓会・高大・受講生の三者で共同経営するものです。これにより連協同窓会と高大の連携・協働を更に強化したいと考えています。

また高齢者大学校では、現在の 12 科を 18 科に増設し、ファイン財団時代の規模にもっていき、とりあえずの継続を完成させたいと考えています。

これからの私たちの課題

これからの社会は、少子高齢化が進行し、元気なアクティブシニアに対する社会の期待はますます大きくなってきます。そこで大阪府のご協力を頂きながら協働する活動を拡大し、内容も更に充実させたいとおもいます。また社会の変化に合わせて新しい活動も開発したいと思います。そして更に強めたいとおもいます。皆さん共に頑張りましょう。

結成 20 周年を祝して

財団法人大阪府地域福祉推進財団
理事長 草川 大造

大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会が結成から 20 周年を迎えられますことを心からお慶び申し上げます。

大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会は、私ども財団主催の養成講座の修了者をもって構成され、地域でのボランティア活動を通じ地域福祉の推進・向上を図ることを目的に、平成 2 年 11 月に結成されて以来、今日まで 20 年間の永きにわたり、会員相互の情報交換や会員の資質向上に努めてこられたことはもとより、多彩なボランティア活動を展開され、地域福祉の向上に大きく寄与してこられました。そして会員数も結成当時の 268 名から、今では 1,000 名を超えるまでに成長されました。

これも、和佐理事長をはじめ、歴代会長・理事長、役員、会員の皆様の熱き想いと並々ならぬご努力の賜物と、心から敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

大阪府のシルバーアドバイザー養成講座は、不幸にして昨年度限りで廃止となりました。これで、新しくシルバーアドバイザーが生まれることは望め

ないのかと思いきや、幸いにして“シルバーアドバイザー養成の灯を消してはならない。”とする声の高まりの中から、有志により NPO 法人高齢者大学校が設立され、養成講座が続けられることとなりました。

これにより、地域における福祉活動、ボランティア活動のリーダーとなる人材が将来にわたって育まれることとなり、私ども財団としましても、ひとまず安堵の胸を撫で下ろしているところです。

本格的な高齢社会を迎え、地域社会を支える上で、高齢者の方々の活躍に大きな期待が集まっております。大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会におかれましては、結成 20 周年という輝かしい節目を機に、どうか私ども財団はもとより、行政や府下市町村の社会福祉協議会、志を同じくする NPO 法人などと一層連携を密にすることで、より大きな力を発揮され、地域活動が実り豊かなものとなりますよう祈念しております。

結びに、大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会のさらなるご発展と会員の皆様のご健康ご多幸を併せ祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

目次

あいさつ	1
大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会 理事長 和佐 義顕	
祝辞	2
大阪府知事 橋下 徹	
NPO 法人 大阪府高齢者大学校 理事長 長井 美知夫	
(財)大阪府地域福祉推進財団 理事長 草川 大造	
~ 目 次 ~	
設立 20 周年記念 座談会	6
大阪府 S A 連絡協議会のあゆみと概要 ...	1 1
・大阪府 S A 連絡協議会の現状.....	1 2
・歴代の役員	1 3
・ S A 養成講座の歴代講師、	1 5
地区 S A の紹介	
・地区 S A 概要一覧	1 8
地区 S A のあゆみと活動事例	
・大阪市 SA	2 0
・北ブロック	2 1
(SA とよなか、 SA いけだ、 SA 箕面・豊能、 SA 吹田、 SA 茨木、 SA 高槻)	
・中ブロック	2 7
(SA 守口・門真、 SA 寝屋川、 SA ひらかた、 SA 交野、 SA 四條畷、 SA 大東、 SA 東大阪、 SA 八尾)	
・南ブロック	3 5
(SA 松原会、 SA はびきの、 SA 藤井寺、 SA 富田林、 SA 河内長野、 堺 SA、 いずみ SA、 SA 泉州南)	
編集後記	4 3

シルバーアドバイザー 昨日・今日・明日

平成 22 年 1 月 25 日 大阪府中央区谷町 6 丁目の大阪府社会福祉指導センターの会議室に、連協設立時に養成講座の運営に携わっていた人、現在連協や地区で活動中の人、OB で昨年設立の高齢者大学校より新たに SA を送り出す人にお集まりいただき、SA の昨日・今日・明日について熱く語っていただきました。

ご出席者（50 音順、敬称略）

岡崎裕子【歌体操部会長】（SA 堺 14 期 世代間）

新谷佳子【大阪府地域福祉推進財団 国際障害者交流センター事業課 班長】

富田幸造【元おもちゃ部会副委員長】（大阪市 SA 7 期 地域活動）

永田得祐【NPO 大阪府高齢者大学校副理事長、NPO SA・ネット大阪理事長】
（SA とよなか 11 期国際）

橋本一江【吹田歌体操市民塾 塾長】（SA 吹田 6 期 地域活動）

森田展生【おもちゃ部会長】（SA 寝屋川 7 期 世代間）

和佐義顕【連協理事長】（SA いけだ 19 期 都市環境）

司会：大川正彦【連協副理事長・広報委員長】（SA 藤井寺 18 期 国際）

（司会）それでは始めさせていただきます。

和佐理事長、趣旨説明よろしく。

（和佐）本日はご多忙中のところご参集くださり有難うございます。設立 20 周年という節目にあたり、昨年 9 月に大阪府補助事業としての SA 養成講座が廃止された事実を踏まえ、関係者が SA の理念というものを



たい。まず設立当初の背景等について。

（新谷）発端は、当時の大阪府知事が新年の巻

頭言で、「シルバーアドバイザー」という名称を挙げ、高齢者の方々の長年培ってこられた知識や経験、技術を地域社会に活かしていく制度をとということで、昭和 63 年度に「シルバーアドバイザー養成講座」が誕生した。



和佐氏

総括、検証し NPO 高大へどういう形で引き継いでゆくかを、ここで一度整理しておきたいとの思いで座談会を企画しました。皆さんの率直なご意見、要望、思いを披露して頂

きたいと思います。

（司会）連協 20 年の歴史と活動を「昨日」、「今日」、「明日」に分けてお話を進めて頂き

第 1 期生の修了者から、当時大阪府内の府民センター単位で活動を行い、各府民センターを活動の拠点としていた。まだまだ、ボランティアという



新谷氏

言葉も一般的ではなく、一方で高齢者は弱者と捉えられていた時代であり、他者のために高齢者がボランティア活動をするということが、地域社会に受け入れて頂くことがなかなか出来な

かった。

また、「シルバーアドバイザー」は地域福祉活動の推進役という意味だったが、高齢者が他者にアドバイスをするという上から下への関係として受け止められ、地域の方々から反発の声も上がったこともあり、みんなが手探りの状態で出発した。

しかし、当時の皆さんの言葉で「社会奉仕」ということへの志は、今よりも高く持っておられたと思う。そんな中で出会ったのが、昭和61年に当時の厚生白書にも紹介された、全国初のシルバーボランティアセンターを立ち上げた、瀬川一人所長である。「皆さんのひとりひとりの力は凄いんだよ」と広島訛りの言葉で地域に根差す活動の素晴らしさや、やりがいと熱く語って下さった。そこから地域福祉活動の意味が、受講者の皆さんに理解されるようになり、またボランティア活動の手段として、松井先生に教わった昔懐かしい玩具を子どもたちへ伝えたり、寺島先生の思いでもあった虚弱高齢者の方々と共に歌体操を繰り広げ、地域社会に少しずつシルバーアドバイザーの活動の輪が広がっていった。

自分たちの活動によって喜んで下さる方が目の前にいる、笑顔が見られる、ということが一番の活動の原動力であり、今現在も続いている意味だと思う。



大川氏(司会)

(司会)続いて、南部講座開設から統合に至るまでの経緯その他についてお願いしたい。

(永田)南部講座は平成15年に開設された。その前からSA連協は行政と定期会合を持っていたが、その場で「府南部から片道2時間と少なからぬ交通費を掛けての受講は気の毒だし不公平」との観点から講座新設の要請提案を行い実現された。話は変わるが、当時(11

期)年2回交換授業があり、自分のコース以外の講座を受講できたが、いい制度だったと思う。瀬川先生の講義が新鮮で衝撃的で今も鮮明に記憶している。統合については、府と吹田市で30年の借地契約が交わ

されていたわけで、期日が近づくにつれ存続を望む声



永田氏

が、特に老大同窓会より上がり署名運動も起こされたが、連協では閉鎖は不可避との判断から、しっかりした形で講座の継続を望むという提言書を出し、平成19年に谷町福祉センターへ移設・統合された。

(森田)自分は7期だが、連協にはまだおもちゃ教室はなかった。修了しても学んだことを地域で還元する場も乏しかった。そこで児童センターへ行って館長に伝承玩具の説明をして講座を開いてもらうことに成功し、現在まで継続している。今と違い、とにかくこちらから積極的に売り込む必要があった。

(永田)SAの名前は社会福祉協議会など一部の地域では知られていたが、地域での知名度は殆どなかった。実績の積み重ねで少しずつ上がっていった。

(森田)連協のおもちゃ教室は平成16年に立ち上げられた。ノーハウの蓄積とその活用のため「CBサンデー手作りおもちゃ教室」(CBコミュニティビジネス)も開設された。同年の“おもちゃまつり”には知事も訪問された。

(和佐)修了後の地区活動状況は?

(新谷)授業の中で地域交流もあった。また在学中から地域での活動、交流も行われていた。

(永田)おもちゃ作り活動では、豊中市上新庄の天神さんなどで松井先生が勉強会を開かれ、先生を囲む「松井教室」も開かれた。

(和佐)自分の印象では世代間が活動の中心の

場合が多かった。それ以外の修了生にとっては何かを作るより健康増進ということで歌体操が近づき易かったかも。

(永田) また、豊中地区では国際交流活動が盛んであった。地域により活動の内容にバラツキと温度差があった。



橋本氏

(橋本) 3,4 期生の時代、授業のあと皆に声をかけて先生の指導の下、歌体操の練習をやった。吹田では平成 7 年に歌体操グループが正式に発足した

が、実際には 4 年にスタートしている。

(富田) 大阪ではシルバーボランティアセンターがあって、平成 14 年頃には小学校等からの要請が多く、売込みは必要なくなっていた。

(永田) 連協全体としては企画部が平成 12 年に設けられ、歌体操、おもちゃが部会となったのは平成 15 年。



岡崎氏

(岡崎) その後自主的な歌体操交流会へとつながり、各地区のグループが一堂に会してパフォーマンスすることも 3 年位前から定着した。

(永田) 平成 13~15 年にかけて、情報センター、企画、広報など連協組織が整備された。その前には記録として残されてないが、連協解散の危機もあった。吹田ではその余波で実際に支部活動が一時的に停止された。

(司会) 次に SA 認定称号の効果・メリットについて伺いたい。

(新谷) 本来、ボランティアに称号というのは、馴染みにくいものだと思う。また、称号にメリットがあるのかという質問を頂くと、いつも返答に困っていた。そこに意味があるとしたら、私は、やはり活動への励みであり、

三年を一つの区切りとして、また次の三年に活動を繋げていくという自分に対する証なのかなと思う。また、その称号をどのように活かしていくかは、シルバーアドバイザーの皆さん次第だと思う。

シルバーアドバイザーの皆さんの活動も幅広くなってこられたと思う。伝承玩具づくりや歌体操だけではなく、国際交流や IT、環境問題に取り組む活動等、まさしく新しい世代のシルバーアドバイザーが誕生されていると伺っている。

(大川) 個人的な体験だが、中国へ交流活動で出かけたとき、大阪府知事認定という称号で諸手続きが軽減されたということはあった。



富田氏

(富田) 開講当時の受講生の意識について一言。聞いた話だが、老大的な趣味的講座に対し、SA は勉強中心のいわば大学院的なものと考えられていたらしい。

(永田) 受講資格を得るために小論文の提出とか、ある時期面接も行われ、やや程度が高いとのイメージがあった。

(司会) 平成 20 年の橋下改革で SA 養成講座助成金打切りとなり、その後速やかに高齢者大学校設立に至った経緯について。

(永田) 20 年度の入学式で、7 月に講座が修了する可能性に言及したため、受講生の混乱と動揺を誘った。公的事業でそうした不安定は許されないのでは、助成金カットとなっても予算を遣り繰りして 20 年度は続行すると軌道修正した。大学の廃止は同窓会への新規修了生が途絶するわけで、府と協議の結果、お金の助成はできないが「大阪府高齢者大学校」の名称使用は認めるので有志団体 (SA 連協、NPO SA ネット大阪、老連協、NPO ふれあいネット、自然大学、老連南同窓会など) 協議を重ね、当該事業継続につき協議するよう依頼が出た。そこでアクテ

イブシニア支援機構（連協、老大、シニア自然大学等数団体）が協議を重ね、方向性を見だし、9月にNPO設立総会を開催し、認定申請後6ヶ月掛り翌年4月に高大設立・開校に漕ぎ着けた。

（司会）SAが地域に戻ってその推進役としての活動状況については？

（和佐）SAの窓口として社協は対応してくれるが、行政や地域では温度差があり知名度も低いからこちらを向いてくれない。SAの理念が反映されているとは言い難い。おもちゃや歌体操など具体的なツールがあれば入っていけるが、無ければ動いてくれない。府のバックボーンがあるので一助にはなっているが、当初の理念は薄れてきている気がする。

（森田）寝屋川では社協にボランティア団体として登録しているが、単なる登録団体の一つでしかない。こちらが能動的にならないと待ちの姿勢ではだめで、更に行政は縦割りであるので社協の音頭では動いてくれない。

（富田）大阪市の場合、24区に分れているが、社協とタイアップしているかどうかは各区まちまちで一概に言えない。

（和佐）高槻では社協のボランティアセンターでSA修了者が窓口となり、各団体との繋がりができている。このようにSA出身者が窓口となって旗振り役を務めるのが本来の活動ではないかと思っている。

（富田）大阪市でも同様の状況のところもある。そんな人がバックアップして欲しいと願っている。

（橋本）吹田の場合、社協にボランティアセンターがあり、SA吹田や老大同窓会他多くの団体が加入している。各団体の代表者の会合でそれぞれ事業・活動を行う場合に、これに参加を希望する団体が挙手をして進めている。ただ各地区の自治会長に福祉委員の任命権があり、SAとしては地道な活動で実績を作り、

知名度を高めることが大切である。

（司会）現在どの地区でも歌体操とおもちゃの活動が盛んだが、その形態、PRその他活動への展開についてお話を聞きたい。

（富田）大阪市ではグループ別に各地域でやっているケースが多い。歌体操は殆ど連日の活動だし、おもちゃは連協活動の時のように旗を立ててのPRはやってない。市のエイジングセンターを拠点にしていたが色々問題があって、今後は活動拠点で対応が必要となりそうだ。人間関係を間違えると問題が生じる。

（森田）期別のグループ活動が主流だが、年毎に戻すばみになり勝ちだ。それはグループの高齢化もあるがリーダーのなり手が少ない。

（永田）やはり地についた活動が大切で、地道に実績を重ねることで行政とか地域で認めてもらえる。社協などでの福祉ボランティア活動、社会教育課との繋がりで小学校でのおもちゃ作り、折り紙指導など定着している。

（森田）社協に登録はしているが、学校でも教頭、校長、PTAにより温度差がある。

（富田）理解のある校長が転校することでこちらから声がかかり、新規活動が増えるケースもある。

（岡崎）おもちゃは期別グループで活動しているが、SAとして四つの小学校で活動している。歌体操も3グループあるが、イベントではSAとして一緒に活動している。毎年ボランティアフェスティバルでPRし続けている。地区活動は別として、連協歌体操部会はまとまりに欠けるとの声を聞く。まず不協和音の解消に努めなければならない。

（司会）それでは最後のテーマ「SA連協の明日」について高大との連携も含めてご意見を。

（永田）明日への課題として、先程から話が出たように歌体操、おもちゃ以外の活動が根付いていないこと、高齢化が進み後継者が育っていないことだ。高大設立について言えば、昨年の

府財政援助打ち切りは、かえって設立の決心が付いて良かったと考えている。しかし、SAコース修了予定者は一時のような400名ではなく2コース100名弱が実態であり、会員数の減少は見ており、決して安心できる状態ではない。アクティブシニア系の健康増進コース修了生は福祉施設訪問など活動に熱心であり、高大としては該コースの拡充にも力を入れたい。多世代交流コースも内容が分かり難いということで、伝承玩具・工芸科と改めた。

(富田) 受講者年齢は下がっているか？

(永田) 女性は若くなっているが、男性はそうでもない。5万円の受講料なので年金支給開始年齢と関係していると思う。また有料のせいも、受講生のモラルは高い。地区SAは受け皿として、これら修了生をがっかりさせないで欲しい。暖かく迎えて、仕事をどんどん作ってあげることが大切だ。

(司会) おもちゃ、歌体操の立場で、今後の活動について何かないか？

(富田) 昨年、地域在住者以外の申込みがあり、結果的には受入れたが、こんな場合にはどのように対応するべきか？

(和佐) 私のところでは、活動趣旨に賛同して頂ける方の入会を認めているが、活動範囲は当該地区で、ということにしている。SA入会条件として、地域在住者、SA修了者に限定

されてきたが、大阪府や財団に依存していた時代と違い、会員数減少傾向の下で、連協としても高大と連携を取りながら、今後の流れを見て決めていかねばならないと思う。

(司会) 最後にまとめを新谷さんをお願いしたい。

(新谷) 地区の上に連絡協議会があるのか、また地区が主役であり、連協は調整役なのかという議論は、設立当初からあったと思う。しかし、平成21年度からの大きな変化を迎えたなか、まさしく、どちらが上か下かという議論を超越し、地区と連協が一体となり、ますます、SAの活動を広く知らせ発展させていくために、自立への道づくりを始めなければいけないのではと思う。その過程でおのずとSAの認定証の意味も見えてくると思うので、皆さんにはぜひ頑張ってくださいと心から願っている。

(和佐) 今、ご指摘があったまさに変化の時に理事長を引受けたが、連協も今までのように行政や財団の調整役のみならず、これからは府や高大に働きかけてパートナーシップを強化して行きたい。各地区においても、それぞれの地区の行政や団体に積極的に働きかけて欲しい。そこからSAの明日が見えて来ると考える。連協自身も活動する組織としてブロック活動等を引き続き強化して行きたい。

(司会) これにて閉会と致します。本日はご多忙中のところ長時間有難うございました。



皆さまお疲れ様でした(終了後の集合写真)

大阪府SA連絡協議会のあゆみと概要

あゆみ

昭和63年 第1期シルバーアドバイザー養成講座開講

平成2年11月 大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会の発足

- ・ 会長： 三谷 一雄（大阪支部）
- ・ 副会長： 野瀬 彦藏（豊中支部）、桑原 利之（南河内支部）
- ・ 支部名： 豊能、箕面、豊中、高槻、島本、茨木摂津、吹田、大阪、北河内、東大阪、南河内、八尾、柏原、泉北、泉南 の15支部

平成16年 南部講座の開講

平成18年9月 「NPO法人 シルバーアドバイザー・ネット大阪」設立

平成19年4月 北部講座と南部講座を統合し、大阪府福社会館へ教室移設

平成20年 大阪府シルバーアドバイザー養成講座打切り発表、NPO 設立準備

平成21年4月 「NPO法人 大阪府高齢者大学校」開校

概要

大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会

「大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会」は、「シルバーアドバイザー養成講座の修了者」をもって構成され、会員相互の情報交換を図りながら、シルバーアドバイザーとしての資質向上に努め、地域でのボランティア活動を通じて、地域福祉の推進・向上を図ることを目的に結成されました。「大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会」は、大阪府内全域でネットワーク活動の輪を広げ、地区SA組織を設置し、社会福祉協議会や地区のNPOセンターを始め地方自治体やその関連機関と連携・協働して、地域の福祉推進に努めています。

シルバーアドバイザーの活動

「シルバーアドバイザー養成講座」の修了者が、長年にわたり培った経験や、知識、技術、特技を活かして、地域のボランティアグループやボランティア仲間と友好な関係を保ちながら、地域福祉活動や様々なボランティア活動を行っています。

シルバーアドバイザー憲章

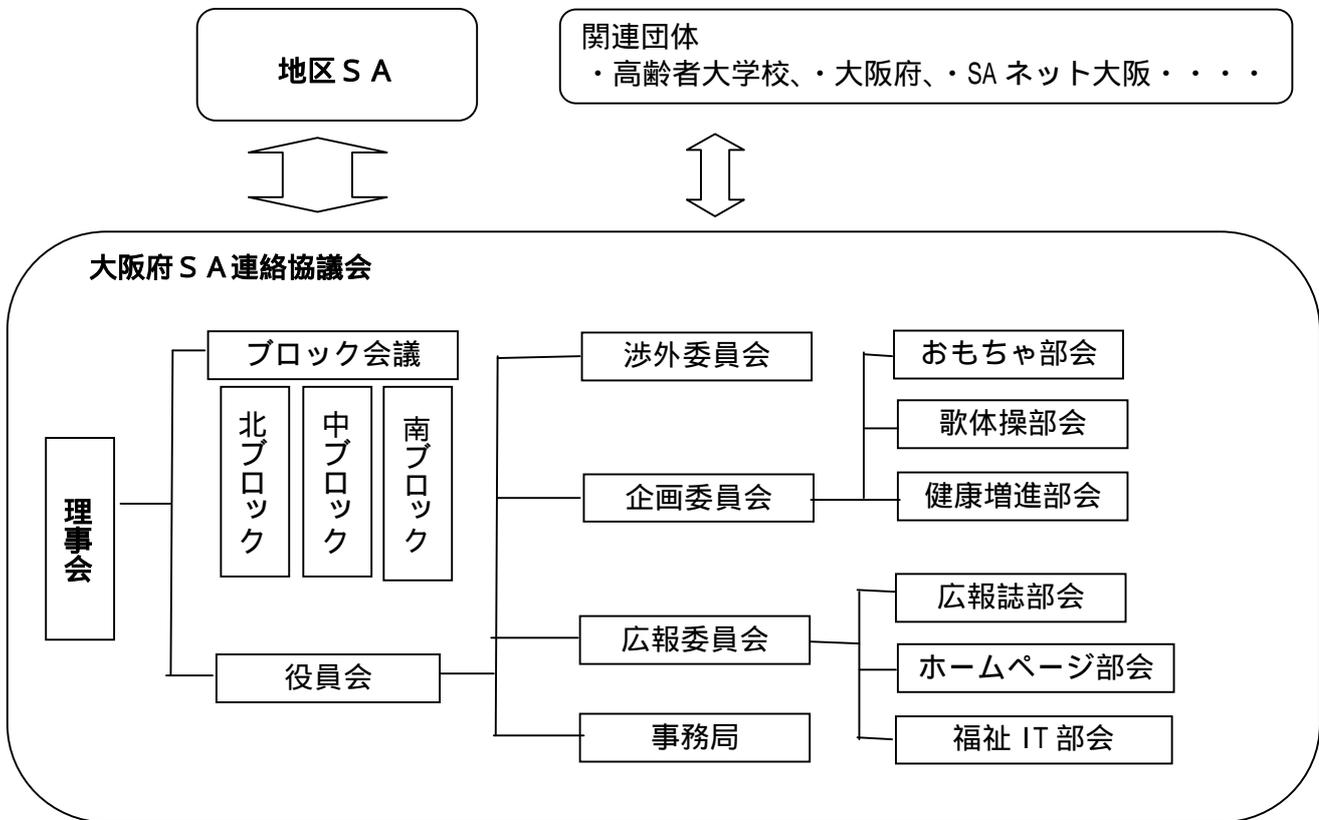
1. 私たち、シルバーアドバイザーは、永年にわたって貴重な知識や経験、技術を培ってきたことに高い誇りをもち、絶えず自らの生き甲斐の高揚に務めます。
2. 私たち、シルバーアドバイザーは、永年にわたって培ってきた貴重な知識や経験、技術を活かしながら地域福祉活動を推進してゆくことに務めます。
3. 私たち、シルバーアドバイザーは、常に人格・識見の向上と活動を行ううえに必要な知識や技術の修得に励み、社会の信頼を得られるように務めます。
4. 私たち、シルバーアドバイザーは、活動に際して、知り得た他人の秘密を漏らしたりすることがないように、十分に注意します。
5. 私たち、シルバーアドバイザーは、シルバーアドバイザーの称号を悪用したり、乱用したりすることのないように十分に注意します。

大阪府 S A 連絡協議会の現状 (平成 21 年 4 月現在)

役員名簿 (敬称略)

理事長	副理事長	総務/企画	広報	会計/監査
和佐義顕 (いけだ)	(渉外委員長) 岩井 (大阪市) (広報委員長) 大川 (藤井寺) (企画委員長) 小川 (吹田)	(事務局長) 大津 (泉州南) 木場 (大阪市) (おもちゃ部会長) 森田 (寝屋川) (歌体操部会長) 小川 (吹田・兼) (健康増進部会) 池田 (大阪市)	(広報誌部会長) 服部 (大阪市) (HP 部会長) 森 (吹田) (福祉 IT 部会長) 榎本 (いけだ)	(会計) 中川 (いずみ) (会計監査) 上島 (大阪市) 立石 (はびきの) (顧問) 佐藤 (吹田)

組織図



歴代の役員

・平成2年度～13年度（敬称略）

年度	役職	会長	副会長	総務	広報	会計	会計監査
平成 2年		三谷 一郎 (大阪)	桑原(南河内) 野瀬(豊中)	三谷会長急逝、後任の桑原会 長事故につき、野瀬副会長が会 長代行		(会計) 和田(茨木)	佐伯(箕面) 射庭(吹田)
3年		池田 明美 (吹田)	植木(泉北) 下条(島本)	瀧川(茨木) 石黒(北河内)		沼口(南河内)	小松(豊能) 佐伯(箕面)
4年		池田 明美 (吹田)	植木(泉北) 下条(島本)	瀧川(茨木)			
5年		本郷 恭世 (島本)	松尾(大阪) 新保(北河内)	岸田(泉北) 横山(大阪)	野瀬(豊中) 瀧川(茨木)	伊村(南河内)	富田(茨木) 島岡(東大阪)
6年		林兵 次郎 (豊中)	久保(箕面) 鍵埜(泉南)	増山(泉北) 山下(豊能)	林(豊中・兼) 鍵埜(泉南・兼)	山本(柏原)	岡本(茨・摂) 池田(島本)
7年		林兵 次郎 (豊中)	島田(柏原) 鍵埜(泉南)	南口(東大阪) 小山(大阪)	島田(柏原) 鍵埜(泉南)	三宅(吹田)	岡本(茨・摂) 塩谷(八尾)
8年		川中 正道 (豊中)	久保(箕面) 木田(吹田)	塚本(柏原) 土居(吹田)	木田(吹田・兼) 栗原(大阪)	清水(豊中)	塩谷(八尾) 木下(茨・摂)
9年		川中 正道 (豊中)	久保(箕面) 木田(吹田)	根来(吹田) 清水(大阪)	奥村(茨木) 富田(大阪)	清水(豊中)	保富(豊中) 下川(大阪)
10年		下川 伸吾 (大阪)	奥村(茨木) 根来(吹田)	根来(吹田) 高田(大阪)	前川(高槻) 小野(大阪)	山田(吹田)	島田(柏原) 坪田(箕面)
11年		入江 道三 (吹田)	奥村(茨木) 小野(大阪)	多木(吹田) 細田(大阪)	塚本(大阪) 小野(大阪・兼)	森田(北河内)	岡本(豊中)
12年		入江 道三 (吹田)	小野(大阪) 岡本(豊中)	多木(吹田) 大森(茨木) 金山(大阪)	大森(茨木・兼) 榎木(大阪)	森田(北河内)	寺田(高槻)
13年		久保 昌之 (東大阪)	永田(豊中) 三浦(堺)	(総務) 大森(茨木) (企画) 坂東(松原) 小田(富田林) 藤田(北河内) 北山(河南) 榎木(大阪) 池田(藤井寺) 踊堂(泉州)	岡崎(高槻)	大武(豊中)	小野(大阪)

・平成 14 年度～ 15 年度（敬称略）

年度 \ 役職	会長	副会長	総務	広報	会計	会計監査
14年	久保 昌之 (東大阪)	(情報センター担当) 永田(とよなか) (企画部担当) 三浦(堺) (広報部担当) 富田(大阪)	(総務) 大森(茨木) 寺本(とよなか) 丹羽(吹田) (企画) 踊堂(泉州) 島村(とよなか) 飯田(北河内) 町田(茨木)	(広報) 北野(大阪) 才木(高槻) 松谷(北河内) (情報センター) 永田(とよなか) 岡田(南河内) 北野(大阪)	大武(とよなか)	坂東(松原)
15年	久保 昌之 (東大阪)	(広報部総括) 永田(とよなか) (企画部総括) 町田(茨木) (会報総括) 北野(大阪)	(総務・事務局) 丹羽(吹田) 寺本(とよなか) 綿谷(高槻) 山尾(大阪) (企画) 坂東(松原) 田中(北河内) 踊堂(泉州) 島村(とよなか) 三田(茨木) 西田(堺) 田中(泉州)	(広報) 才木(高槻) 岡本(茨木) 二葉(八尾) (情報センター) 岡田(河内長野) 松谷(北河内) 松谷(大阪) 重松(池田)	三好(吹田)	岡崎(高槻)

・平成 16 年度～ 20 年度（敬称略）

年度 \ 役職	会長	副会長	総務	広報	会計/ 会計監査	
平成 16 年	久保 昌之 (東大阪)	(広報) 北野 忠男 (大阪) (企画) 佐々木美綺子 (堺) (渉外) 永田 得祐 (とよなか)	(総務部長) 丹羽(吹田) (企画) 坂東(松原) 村田(箕面) 三田(茨木) 岡崎(堺) 石井(高槻) 田中(泉州) (総務) 寺本(とよなか) 綿谷(高槻) 京極(茨木) (渉外) 窪田(北河内)	(会報) 山本(河内長野) 橋本(大阪市) 二葉(八尾) 荻野(はびきの) 大西(大阪市) 武内(吹田) (HP) 山添(北河内) 重松(いけだ) 山尾(大阪市) 橋本(はびきの) 小山(堺)	(会計) 三好(吹田) (会計監査) 小田(富田林) 細田(大阪市)	

(敬称略)

年度	役職	会長	副会長	総務	広報	会計/ 会計監査	
平成17年		久保 昌之 (東大阪)	(企画) 三田(茨木) (広報) 橋本(大阪市) (渉外) 窪田(交野) (顧問) 久保(東大阪)	(事務局長) 武内(吹田) (総務) 植田(羽曳野) 田村(高槻) 河内(吹田) (企画) 森田(寝屋川) 坂東(松原) 梶山(大阪市) 岡崎(堺)	(広報委員長) 重松(いけだ) (広報誌) 橋本(大阪市) (HP) 山添(ひらかた)	(会計) 日鷹(東大阪) (会計監査) 小田(富田林) 北野(大阪市)	(NPO設立 準備委員会) 永田(とよなか) 踊堂(泉州) 二葉(八尾) (CB委員会) 三田(茨木) (介護実習・ 普及センター支援 委員会) 三田(茨木)
平成18年		窪田 泰之 (交野)	(企画) 三田(茨木) (広報委員長) 上島(大阪市) (渉外委員長) 北原(とよなか)	(事務局長) 武内(吹田) (書記) 田村(高槻) 奥田(大阪市) (企画) 森田(寝屋川) 富田(大阪市) 梶山(大阪市) 岡崎(堺)	(広報誌) 藤井(門真・守口) (HP) 山添(ひらかた)	(会計) 中川(いずみ) (会計監査) 北野(大阪市) 田中(交野)	(国際交流 委員長) 永田(とよなか) (CB委員会) 三田(茨木) (SAハートケアホ ンテア) 三田(茨木)
		理事長	副理事長	総務/企画	広報	会計/ 会計監査	
平成19年		窪田 泰之 (交野)	(渉外委員長) 原田(堺) (広報委員長) 中村(藤井寺)	(事務局長) 佐藤(吹田) 木場(大阪市) (企画委員長) 上島(大阪市) 森田(寝屋川) 梶山(大阪市)	(会報誌) 中村 (藤井寺・兼) (HP) 森(吹田)	(会計) 中川(いずみ) (会計監査) 北野(大阪市) 武内(吹田)	
平成20年		佐藤 宏一 (吹田)	(渉外委員長) 立石(はびきの) (広報委員長) 和佐(いけだ) (企画委員長) 上島(大阪市)	(事務局長) 大津(泉州南) 木場(大阪市) (委員会活動) 森田(寝屋川) 中野(大阪市) 池田(大阪市)	(広報誌部会長) 服部(大阪市) (HP部会長) 森(吹田)	(会計) 中川(いずみ) (会計監査) 窪田(交野)	

S A 養成講座の歴代講師

(敬称略)

	国際交流ゼミ	世代間交流ゼミ	福祉ボランティアゼミ	在宅ケアゼミ	地域活動 コーディネーター ゼミ	健康指導ゼミ
1988年 (S63) 1期	佐藤 政廣	世戸 俊男	筒井 のり子	浜 美佐子・ 田中 俊行	瀬川 一人	森 祥滋

	国際交流専攻	世代間交流専攻	ボランティア専攻	地域活動 コーディネーター専攻
1989年 (S64・H1) 2期	佐藤 政廣	世戸 俊男	早瀬 昇	瀬川 一人

実習課程を実施(・在宅福祉サービス実習、・文化伝承実習、・生活交流実習、・スポーツレクリエーション実習)

	国際 交流活動G	世代間 交流活動G	ボランティア 活動G	歌体操 ふれあいG	地域活動 コーディネーター 活動G	スポーツ 交流G
1990年 (H2) 3期	高橋 勲子	松井 鴻	早瀬 昇	寺島 龍子	瀬川 一人	森 祥滋

	国際交流 活動専攻	世代間交流活動 専攻	ボランティア専攻		地域活動 コーディネーター 専攻
			ボランティア専攻(1)	ボランティア専攻(2)	
(H3) 4期	高橋 勲子	松井 鴻	早瀬 昇	寺島 龍子	瀬川 一人
(H4) 5期	阪本 秀雄	松井 鴻	早瀬 昇	寺島 龍子	瀬川 一人

	国際交流 活動専攻	世代間交流活動 専攻	福祉ボランティア専攻		地域活動 コーディネーター 専攻
			地域ボランティア 活動専攻	福祉ボランティア 活動専攻	
(H5) 6期	阪本秀雄	松井 鴻	早瀬 昇	寺島 龍子	瀬川 一人
(H6) 7期	阪本秀雄	松井 鴻	早瀬 昇	寺島 龍子	瀬川 一人
(H7) 8期	阪本秀雄	松井 鴻	早瀬 昇	寺島 龍子	瀬川 一人

	国際交流活動専攻	世代間交流活動専攻	福祉ボランティア専攻	地域活動 コーディネーター 専攻
(H8) 9期	阪本 秀雄	松井 鴻	寺島 龍子	瀬川 一人
(H9) 10期	阪本 秀雄	松井 鴻	寺島 龍子	瀬川 一人
(H10) 11期	阪本 秀雄	松井 鴻	寺島 龍子	瀬川 一人
(H11) 12期	阪本 秀雄	松井 鴻	寺島 龍子	瀬川 一人
(H12) 13期	阪本 秀雄	松井 鴻	浅野 和代	瀬川 一人
(H13) 14期	阪本 秀雄	松井 鴻	早瀬 昇	瀬川 一人
(H14) 15期	有田 典代	松井 鴻	早瀬 昇	瀬川 一人
(H15) 16期	有田 典代	松井 鴻	早瀬 昇	瀬川 一人

2004年（H16）17期

北部講座	国際交流活動 専攻	世代間交流活動 専攻	福祉ボランティア 専攻	地域活動コーディネーター 専攻
	澤山 利弘	松井 鴻	早瀬 昇	瀬川 一人
南部講座	福祉ボランティア専攻		福祉ボランティア（IT）	地域福祉ボランティア
	稗田 雄三		NPO法人 シンフォニー	金田 喜弘

2005年（H17）18期

北部講座	国際交流活動専攻	世代間交流活動専攻	健康福祉ボランティア専攻	地域活動コーディネーター専攻
	澤山 利弘	松井 鴻	竹村 安子	瀬川 一人
南部講座	福祉ボランティア専攻		福祉ボランティア（IT）	地域福祉ボランティア
	稗田 雄三		NPO法人 シンフォニー 吉村 龍之	村田 智美

2006年（H18）19期

北部講座	国際交流	世代間交流	健康増進	地域活動	都市環境
	澤山 利弘	松井 鴻	仲原 成岳	竹村 安子	遠藤 尚美
南部講座	世代間交流		福祉IT活用		健康増進
	稗田 雄三		吉村 龍之		仲原 成岳

2007年（H19）20期

月曜	国際交流	世代間交流	健康増進	地域活動	都市環境
	澤山 利弘	松井 鴻	仲原 成岳	竹村 安子	遠藤 尚美
木曜	健康増進		福祉IT活用	世代間交流	産業支援シニア
	仲原 成岳		吉村 龍之	稗田 雄三	井上 大三

2008年（H20）21期

月曜	国際交流	世代間交流	健康増進	地域活動	都市環境
	津田 昌二	松井 鴻	仲原 成岳	竹村 安子	遠藤 尚美
木曜	健康増進		福祉IT活用	世代間交流	産業支援シニア
	仲原 成岳		吉村 龍之	稗田 雄三	井上 大三

2009年（H21）NPO法人大阪府高齢者大学校シルバーアドバイザー養成コース

科 目	テーマ	講 師
地域交流科	社会貢献 まちづくり	藤田 綾子（大阪大学大学院教授） 久 隆浩（近畿大学理工学部教授） 倉田 薫（池田市市長）
	環 境 地域福祉 国際交流 まとめ ほか多数	前中 久行（大阪府立大大学院教授） 牧里 每治（関西学院大学教授） 有田 典代（関西国際交流団体協議会） 新崎 国広（大阪教育大学准教授）
多世代交流科	ペーパークラフト 自然体験学習 木工工作 おもしろ算数教室 子育て世代への支援 ほか多数	松井 鴻（日本余暇文化振興会研究員） 佐々木 耕児（ヒーリングガーデナー） 杉田 雅博（DIY関西連絡会会長） 二葉 登代子（シルバーアドバイザー・ネット大阪理事） 金山 好美（奈良YMCA講師）
	両科目共通	基礎講座 ほか

地区SAの紹介



【北ブロック】

SA高槻
SA箕面・豊能

SA茨木
SAいけだ

SA吹田
SAとよなか

【中ブロック】

大阪市SA
SAひらかた
SA大東

SA守口・門真
SA交野
SA東大阪

SA寝屋川
SA四条畷
SA八尾

【南ブロック】

堺SA
SA藤井寺
いづみSA

SA松原
SA富田林
SA泉州南

SAはびきの
SA河内長野

地区SAの概要一覧

No.	名称	地域	会員数	設立	おもな活動内容
1	大阪市SA	大阪市	171	平成2年	・手作りおもちゃ ・歌体操 ・ディスコン ・健康増進・パソコン教室 ・地域のボランティアイベント参加 ・月例会活動 ・親睦交流会 ・紙ヒコーキ ・手話 ・ハーモニカ ・落語 ・マジック ・折り紙 ・地域清掃 ・介護用具説明ボランティア 他
2	SAとよなか	豊中市	92	平成元年	・地域子供教室(おもちゃ、マジック) ・沖縄伝統楽器”三線”の製作と演奏指導 ・詩、短文の朗読会 ・留学生との交流会 ・料理教室 ・歌体操 ・地域のイベント参加 ・会員親睦
3	SAいけだ	池田市	20	平成15年	・手作りおもちゃ・歌体操・傾聴・ディサービス慰問・男女共生サロンの支援活動・地区福祉子育て支援活動・都市環境保全活動・地域コミュニティー委員活動
4	SA箕面・豊能	箕面市 豊野町	21	平成元年	・歌ごえ広場 ・有機栽培農業普及・健康増進体操 ・歌体操活動準備・おもちゃ作り計画中
5	SA吹田	吹田市	130	平成元年	・高齢者ケア(歌体操、おもちゃ、園芸福祉) ・青少年健全育成(おもちゃづくり、福祉体験授業) ・コミュニティーづくり(外国留学生と小学生の交流)
6	SA茨木	茨木市 摂津市	121	平成元年	・手作りおもちゃ ・歌体操 ・オカリナ ・マジック ・パソコン教室 ・地域のボランティア行事参加 ・ボランティアセミナー ・親睦交流会

No.	名 称	地域	会員数	設立	おもな活動内容
7	S A 高槻	高槻市 島本町	90	平成 2 年	・おもちゃ部会 ・歌体操部会 ・ご馳走クラブ(男の料理教室) ・伝承おもちゃ親子教室 ・会報発行(年6回) ・地域のボランティア行事参加
8	S A 守口・門真の会	守口市 門真市	27	平成 16 年	・おもちゃ ・歌体操 ・マジック ・手作り紙工品 ・地域のボランティアイベント参加 ・親睦交流会
9	S A 寝屋川	寝屋川市	23	平成 17 年	・手づくりおもちゃ ・健康音楽体操 ・木工工作 ・落語 ・マジック ・地域福祉活動
10	S A ひらかた	枚方市	32	平成 17 年	・マジック ・歌体操 ・茶道 ・傾聴 ・おもちゃ作り ・月例会 ・各種イベント共催、参加
11	S A 交野	交野市	23	平成 16 年	・おもちゃ ・ディスコン ・車椅子ダンス ・歌体操 ・演芸 ・マジック ・介護服
12	S A 四條畷	四條畷市	7	平成 16 年	・月例会 ・伝承おもちゃづくり ・折り紙 ・凧づくり ・赤い羽根の街頭募金活動 ・歌体操
13	S A 大東の会	大東市	12	平成 18 年	・おもちゃ ・歌体操 ・地域イベント参加 ・親睦交流会
14	S A 東大阪	東大阪市	22	平成 13 年	・福祉施設の行事参加 ・文化財保護施設等の清掃活動 ・登下校の見守り隊パトロール ・放課後学童保育
15	S A 八尾	八尾市	28	平成 15 年	・福祉施設のボランティア支援 ・学童や未就学児の子育て支援 ・市民にボランティア活動を指導 ・八尾市や社協の市民行事参加
16	S A 松原会	松原市	20	平成 9 年	・いきいき歌体操 ・おもちゃ作り ・施設のイベント参画
17	S A はびきの	羽曳野市	23	平成 15 年	・おもちゃ ・歌体操 ・ディスコン ・市イベント参加
18	S A 藤井寺	藤井寺市	11	平成 16 年	S A 主催教室(ストレッチ体操,おもちゃ,パソコン,ディスコン,お手玉)・ジャスコ黄色レシートキャンペーン協賛参加・ボラ連,連携活動/会長 SA
19	S A 富田林	富田林市	22	平成 13 年	・「市民触合い祭り」他 市主催各種イベントに参加等 ・各期による個別のボランティア活動
20	S A 河内長野	河内 長野市	23	平成 3 年	・おもちゃ ・歌体操 ・パソコン教室 ・ふれあい電話 ・農園栽培・囲碁将棋 ・子ども自然と遊び教室 ・健康体操 ・各種講座講習講演会 ・慰問・地域イベント参加 ・親睦交流会
21	堺 S A 連絡協議会	堺市	79	平成元年	・歌体操 ・おもちゃ ・介護ボランティア ・地域イベント参加 ・パソコン教室 ・折り紙 ・親睦交流
22	いずみ S A 連絡協議会	和泉市 泉大津市	18	平成 15 年	・バルンアート、・おもちゃづくり、・いきいき体操、・パソコン指導
23	S A 泉州南	堺市～岬町 までの7市2町	30	平成 19 年	・伝承玩具作り ・歌体操 ・ディスコン ・パソコン教室 ・環境整備 ・小学校クラブ活動指導 ・大人の林間学校 ・通訳支援など

大阪市 S A

名 称 大阪市シルバーアドバイザー
連絡協議会
設立年月日 平成2年4月
会 員 数 171名
東ブロック 62名 西ブロック 38名
南ブロック 37名 北ブロック 34名
代表者氏名 岩井 博

を集め、会員の連携を深める。組織の活性化と新分野の開拓

ボランティア活動の原点へー
事務局会議予備会幹事会の位置づけを明確にし、機能させる。幹事会は議決機関である。又、19年度も手作りおもちゃ、内閣府より表彰される。

- 平成21年度 岩井会長は上島前会長のボランティアの理念を引き継ぎ、会員は諸々の社会貢献活動を活発に行っている。予備会は現在役員会となっている。

あゆみ（設立から現在）

年 度	歴代代表者（専攻コース）
平成2年	初代 三谷・徳岡、両氏
2～5年	広瀬藤四郎（3期地活）
6年	松尾 禎三（3期地活）
7～8年	谷 幸夫（4期世代）
9～11年	下川 伸吾（4期世代）
12年	小野 一（9期国際）
13～14年	富田 幸造（7期地活）
15～16年	北野 忠男（13期地活）
17年度	橋本 好子（14期国際）
18～20年	上島 三郎（15期地活）
21年～現在	岩井 博（17期福祉IT）

府 S A 役員名簿（16～21年度）		
北野忠男	16年度 副理事長	広報担当
橋本好子	17年度 副理事長	広報担当
上島三郎	18 20年度 副理事長	企画広報担当
岩井 博	21年度 副理事長	渉外担当

～ 活動事例 ～

活動実績・東西南北4ブロックに分かれて活動部活動・手作りおもちゃクラブ、歌体操協議会健康増進部、紙ヒコーキ倶楽部、ディスコン、グランドゴルフ、ハーモニカ、期別グループ

- 平成2年4月 養成講座の要請を受け支部発足。大人数の為、東西南北ブロック活動にした。
- 平成7～13年度 組織として基盤が安定し、支部月例会、グループ活動等ボランティア活動が活性化した。歌体操「恵比寿」代表中野善弥（3期・在宅ボランティア）や、手作りおもちゃ代表谷幸夫（4期・世代間）の活動が特筆すべきもので有り、手作りおもちゃは内閣府より表彰された。
- 平成14年度 S A大阪支部から大阪市シルバーアドバイザー連絡協議会と現在名に改称。
- 平成15～16年度 事務局を再編し組織の活性化を図り推進する。各種助成金獲得、府 S A 連協のホームページ立ち上げに参画、シルバー通信15周年記念誌が発刊された躍動の年といえる。
- 平成17年度 北野前会長のもとで組織の改善が行なわれ、ブロック中心・事務局会議の設置・幹事会予備会議の設置と、又これまでの伝統を継承しながら、新規の会員を受け入れ、新しい時代の要請を取り入れ、大阪市 S A 連協をさらに発展させる事で活動の新方針を決定した。情報の共有化、月例会に親睦性を深める、専門性を高める為研修や見学会の充実等である。大阪府福祉基金地域福祉振興助成金を獲得し、パソコンを導入しパソコン教育を行った。
- 平成18～20年度 上島会長の下活動方針、活動計画が発表された。組織を強化し幅広く情報



月例会・会員の親睦、研修会、見学会、等



全興寺・おも路地活動手作りおもちゃ
キッズプラザ・「遊び小屋」手作りおもちゃ
四恩学園・住吉、天王寺、手作りおもちゃ
サービス「ゆり」・ディスコン、おもちゃ

難波の宮跡清掃ボランティア
大阪府の施設・福祉用具説明員ボランティア

定期的な・手作りおもちゃ講習会、歌体操協議会講習会 会研修会、健康増進部、「ゆり、四恩学園（住吉、天王寺）」手作りおもちゃ学習会等

SA とよなか

名 称 シルバーアドバイザーとよなか
設立年月日 平成元年5月31日
会 員 数 92名
代表者氏名 大宅 俊夫

SA連協 20周年に際して

SA連絡協議会は、20周年を迎えた。人間社会の20歳は、成人となっためでたい節目の年として、官民挙って祝宴を開く。

SA連協の20周年誌発刊を機に、開設当初にSA講座が描いた方向と、この講座修了生に限定して、大阪府知事の認定証が発給されてきた意義を改めて考えた。

SA養成講座は、高齢者の人生を活性化するとともに地域福祉活動を推進するボランティアを育成し地域社会へ貢献してもらう事を目的としており、そのための知識・技能を修得した証しとして認定証が発給され、講座修了後も地域でボランティア活動（以下V活）に励むことが求められている。

時の流れと共に、応募者の置かれている環境も、動機も、主旨も変化してきたが、V活が一般市民にも浸透し数多くの団体、活動家が出てきた。今回のSA講座閉校は、公的機関としてそれなりの目的は達成したと看做した結果とも捉えられる。

あゆみ（設立から現在）

吹田、箕面地区に続き、平成元年5月31日、シルバーアドバイザー（以下SA）豊中支部として、市立蛸池公民館を会場に10名の会員で発足した。SA支部会員は全員老卒の為、翌2年発足した老大同窓会豊中支部とは一体として活動/運営された。又、平成元年設立、2年改名した“大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会”では、代表、代表代行、副代表等の役職をSAとよなか会員が担当し、会の発展に寄与した。野瀬彦蔵、川中正道、垣内禮造、柿迫昭美、永田得佑の各氏である。

平成7年、SA講座募集要項を変更、老卒以外の府民も応募できる事になり、平成8年以降、SAとよなかにもSA講座のみの修了生が増加、会費問題/活動の主旨の相違等から両者は分離独立する事になった。

SAとよなかの会則/組織名/役職名の呼称名変更など組織の整備を順次進め、梅津真氏、北原健司氏を経て現体制に至っている。会員の新規加入は年度により大幅な変動を繰り返して来たが、“講座修了後は地区SAに参加が当然の義務”との考えは後退、個人の好みにあったボランティア団体を選択する傾向が顕著になった。

現在、SAとよなか92名の会員は、個人、仲間、サークル毎、期毎に各種V活を積極的に行っており、

SAとよなかに登録済の個別活動サークルだけでも20種以上あり、活動規模に於いては決して他団体/地区に引けは取らないアクティブ団体である。今後は、SAとよなか全員の参加を促す全体活動をより積極的に進め、会の魅力と結束と入会したいV活団体の一つとして、地域社会との一体化を目標に努力したい。

～ 活動事例 ～



とよなか祭 市長と共に



刀根山祭 留学生集合



くらしかん祭 おもちゃ作り

S A いけだ

名 称 シルバーアドバイザーいけだ
設立年月日 平成12年2月17日
会 員 数 20名
代表者氏名 和佐 義顕

あゆみ（設立から現在）

平成15年度 「シルバーアドバイザーいけだ」設立、代表に重松啓司氏を選任（2月）。SA連絡協議会に入会（3月）。池田市「男女共生サロン」に登録（6月）。毎月1回「SAいけだ」定例会を開催。

おもちゃ部会発足（1月）。大阪府主催「学童保育指導」おもちゃ講習会に参加（2月）。池田市公益活動促進協議会に届出団体として登録（3月）。平成16年度 池田市社協・池田市ボランティアセンター会員に登録（4月）。おもちゃ部会を「さくらんぼの会」と命名し、学習会を始める（7月）。「池田ボランティア祭り」に「さくらんぼの会」が初参加。以降、毎年参加（10月）。

平成17年度 「子育て応援フェスタ-2005」（於万博会場）に歌体操メンバーが参加（5月）。「いきいきシルバー夢舞台」（於大阪市北区民センター）に歌体操メンバーが参加（10月）。「フィンエイジフォーラム2006」（於梅田スカイタワービル）に歌体操メンバーが参加（2月）。

平成18年度 池田市介護予防相談員に「SAいけだ」から高橋、澤井、岸本、久保、田村、山崎の6氏が任命される。「池田ボランティア祭り」に手づくりおもちゃ「さくらんぼの会」と「いけだ歌体操グループ」が参加（10月）。

平成19年度 新代表に和佐義顕氏を選任（4月）。「さくらんぼの会」が五月保育所の依頼で絵本作り、池田保健所の依頼で垂れ幕作りを行う。傾聴ボランティア「なごみ」を立上げ、社協登録団体になる。

平成20年度 池田市に出前講座を要請し、「教育委員会について」を受講、以降原則として2月に1回の出前講座を受講（8月）。「池田市長とちょっと気ままなティータイム」に参加（2月）。

平成21年度 「SAいけだ」設立5周年記念誌発行（4月）。傾聴ボランティア「なごみ」がニッセイ財団「生き生きシニア活動顕彰」を受賞し、5万円を受領（7月）。「池田市登録公益活動団体」に登録（8月）。「SAいけだ」独自のホームページを立上げ（10月）。

～ 活動事例 ～

「SAいけだ」としての活動

平成16年1月に発足した「SAいけだ」のおもちゃ部会「さくらんぼの会」は、手づくりおもちゃ

を通じて、参加者同士が和みながら生きがいづくりや、子どもたちに手づくりの楽しさを伝えることで、心の豊かさを育成することを目的として、次のような活動を続けている。

- ・いけだNPO主催「ボランティア祭り」での実演販売に参加
- ・諸施設からの依頼の作品作り
- ・随時「さくらんぼ教室」の開講による作品作り
- ・SA連協のおもちゃ部会に参加



NPOフェスタ in 池田70に出展



アクティブシニアフェア2009 北ブロックのブースに出展

部活動・グループ活動

- ・手づくりおもちゃの紹介「さくらんぼの会」
- ・健康増進の「歌体操グループ」
- ・施設訪問の傾聴ボランティア「なごみ」
- ・デイサービスへの慰問訪問「SA北摂21」

個人の活動

- ・「男女共生サロン」の支援活動
- ・池田市敬老会館の世話役
- ・都市環境保全活動
- ・地区福祉子育て支援活動
- ・地域コミュニティー委員活動
- ・介護相談員 等

SA 箕面・豊能

名 称 大阪府シルバーアドバイザー
箕面・豊能支部
設立年月日 平成元年4月
会 員 数 21名
代表者氏名 安居 廣明

え広場」を企画、年2回(春、秋)開催。09年秋には10回目を盛大に終えました。年々参加者も増え市民に定着して来た。その他イキイキ農園と称して有機農業で安心・安全野菜作りを企画、行く行くは普及出来る様勉強を重ね頑張る所存。後は「歌体操・健康増進体操」を箕面・豊能で会員を集めて独自活動出来る様作業中、ただ世相に合わせて苦勞を重ねております。当面は連協北ブロックの方々の応援を仰ぎながら、支部として恥じない活動を、ただ今は全員頑張ります。

あゆみ (設立から現在)

歴代代表者

年 度	歴代代表者(専攻コース)
平成元年~4年	佐伯
5~7年	中井 安夫(1期地活)
8~11年	久保 正則(4期国際)
12~15年	坪田 三郎(5期地活)
15~16年	村田 照子(13期国際)
16~19年	古川 義忠(13期地活)
20年度~現在	安居 廣明(18期地活)

~ 活動事例 ~



人と人・心と心 助け、助け合う集団

S A 連絡協議会二十周年我が支部も大阪府最北端より同時に、歩いて二十周年諸先輩が築き上げてきました。

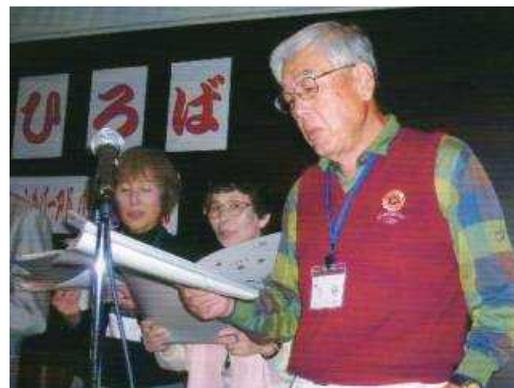
創立 1989年4月 当初池田、箕面、豊能町、能勢町人員12名で発足、当時市立ささゆり園を拠点として活動。独居の方々への、配食サービスの弁当に一言メッセージを添えて配る事から豊能障害者労働センターでの封筒宛名書き、カレンダーの販売手伝い、等々と苦勞を重ねながらの活動。

1993年 地域高齢者を対象にお琴の演奏活動をスタート。

1994年 箕面市民活動センターがオープン、オープンセレモニーとしてボランティアフェアが開催され、S A、箕面として子供達に、おもちゃ作りを指導、その後引き継いで参加して参りました。其れまでは社協、活動センターの企画に乗ってボランティアグループが参加させて頂いていると言う格好で参加。これでは折角のボランティアグループの顔が隠れている。其処でS Aとしての名がすたると思い、他グループに相談を持ちかけ、我々で行動して1998年より開催をと社協に願い力量発揮する事を力説し、我々グループが責任維持する事を念頭に以後グループが毎年実行委員会を開き委員長・副委員長を先頭に開催を引き継いで、行政の方々より賞賛得られるに至った。

支部全体活動としては・・・

2007年 市制五十周年記念時我が支部に市長表彰を受ける。会員全員個人活動重視これは学習中の専門を生かしての活動。支部全体活動で「うたご



S A吹田

名 称 シルバーアドバイザー吹田
設立年月日 平成元年4月
会 員 数 130名
代表者氏名 小川 忠夫

あゆみ（設立から現在）

平成元年3月活動開始

吹田出身のS A1期生26名は、平成元年3月に養成講座修了後、直ちに毎月の例会で情報交換をしながら、地域福祉に貢献すべく活動を開始した。

2年目にはいって、お互いに成功例を紹介しあったり、各地区の情報交換を行う必要性があるということによって結成された大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会に、S A吹田も積極的に参加していくことになり、2代目会長の池田氏は2期にわたり、同じく7代目の入江氏も2期にわたって連協の会長を務めた。また初代・射庭、6代・木田会長も連協の副会長や会計といった要職に就任し活躍した。

活動の停滞～平成13年5月活動停止、休会

当時はS A養成講座修了生全員がS Aに加入するというようになっていたため、当初は会員数も順調に伸び、諸活動も活発になっていった。しかし、7期くらいから強制的ではなくなったため、加入率が高い年も低い年もあったが、それでも平成12年には94名の会員数になり、100名を越えるのも間近という時期になって、支部としての活動が停滞気味になってきた。歌体操・おもちゃづくり・介護支援といった活動は、もっぱら個人活動としてばらばらに行なわれるようになってきてしまった。そうした中、役員のみ手が減っていき、当時の会長の話によれば、10～13期生で役員選出委員会を組織しよう提案した、賛成とも反対ともはっきりしないまま、結局実現するに至らなかった。結果として、平成13年の5月の総会で休会決議せざるを得ないという大難局にぶつかった。

再興から発展へ

平成13年秋頃から当時の連協幹部からの呼びかけがあって吹田支部再興の動きが始まり、4期、10期の役員経験者と12期、13期の有志が集まり、種々議論の結果、14年6月に再建総会を開催、丹羽会長を選出し再発足した。

丹羽会長の下に12・13期生が中心になり、おもちゃづくり・歌体操を中心にした現在の活動の原型が出来上がった。会員数も順調に増加し活動も軌道にのってきた。

武内会長時代の地道な活動が実を結び、現在の活動の基盤が確立された。

次いで佐藤氏の会長就任により活動は多方面に展開され、大阪府の高齢者コミュニティワーカーズの先導モデル事業など多彩な活動に取り組めるよう

になった。佐藤氏がS A連協の理事長に就任したため会長は小川氏に代わった。活動は更に拡大して、福祉部の発足、福祉ボランティア派遣事業の立上げや吹田市の「まちづくり市民塾」等にも取り組んで現在に至っている。会員数は130人 おもちゃ部会・歌体操部会・国際交流部会・福祉部会・ブロック活動部会の5部会で構成して活動している。

～ 活動事例 ～

【おもちゃ部会】

小学校・公民館・児童館等で活動、

15小学校/年間

部会員15人

留学生20人、

ボランティア動員数

延べ60人/年



【歌体操部会】



小学校・中学校 10

校で活動/年、

部会員 20人 車椅子

等々の体験学習、

ボランティア動員数

100人/年

【国際交流部会】

小学校授業時間内及び土曜日に活動、

15小学校/年間

部会員15人

留学生20人



【福祉部会】



小学校・中学校 10

校で活動/年、

部会員 20人 車椅子

等々の体験学習

ボランティア動員数

100人/年

【福祉ボランティア派遣事業】

S A吹田に登録したグループが行う「福祉ボランティア」に対して1回につき200円の交通費を補助する。

現在32グループ登録済み。対象者 延べ1200人/年

助成金・事業収入を原資として予算25万円で運営。

対象者 延べ1200人

S A 茨木

名 称 シルバーアドバイザー茨木
 設立年月日 平成元年 4 月
 会 員 数 1 2 1 名
 代表者氏名 田 野 宏

開設（準備段階より参画）歌体操活動に福祉財団より助成金交付（18 年）。当該助成金にて「歌体操ボランティア養成講座」を開設指導し修了生による市民参加の歌体操グループ「のぞみ」設立、S A 歌体操と合同活動、歌体操グループが市長表彰（19 年）。茨木市制 60 周年記念事業で S A 茨木が市長表彰（20 年）

あゆみ（設立から現在）

年 度	歴代表者	会員数
平成 1~2 年	(空席)	13~27 名
3~4 年	富田 延人	39~45 名
5~9 年	岡本 時夫	55~78 名
10~11 年	奥村 満男	66~66 名
12~14 年	高田 絹子	63~85 名
15~16 年	町田 孝	88~98 名
17~20 年	三田 進一	109~126 名
21 年~現在	田 野 宏	121 名

平成元年

1 期生で S A 茨木・摂津支部を設立。当初は同好会的活動で、特に代表者は定めない。

平成 2~5 年度

連協 S A 茨木・摂津支部とし総会を開催し、初代表に富田延人氏を選出（3 年）特老「茨木荘」盆踊り参加（4 年）。福祉施設で歌体操の指導（5 年）。

平成 6~10 年度

「みんな集まれボランティア」で手作りおもちゃ指導開始（6 年）。使用済みテレカ収集しアジア協会に寄贈開始、「愛は地球を救う」募金活動に協力開始、「茨木フェスティバル」で手作りおもちゃ指導開始（8 年）。茨木・摂津支部より S A 茨木支部として分離（9 年）会誌「S A 茨木通信」創刊（10 年）。

平成 11~16 年度

高齢者料理教室開催（11 年）。ウォーキング会開催（12 年）。連協茨木支部より S A 茨木へ改称。茨木市介護保険ガイドブック作成・配布、茨木市青少年野外活動センターでの手作りおもちゃ作り支援開始（13 年）。S A 茨木・高槻活動報告会開催、市内小学校での総合学習におもちゃ作り参加開始（14 年）。個人会員による高齢者ふれあいサロン「あすか」設立。（15 年）アジア協会と協同で「ぞうすいの会」開催（16 年）。



平成 17~21 年度

マジックサークル、オカリナサークル設立（17 年）。パソコン教室開設、茨木市民活動センター

~ 活動事例 ~



おもちゃ作り
 青少年野外活動
 センター

歌体操
 茨木フェスティバル



オカリナ演奏
 きらめきフェスタ

マジックショー
 老人ホーム慰問



パソコン教室
 生涯学習センター

S A高槻

- 名 称 シルバーアドバイザー高槻
- 設立年月日 平成2年11月20日
- 会 員 数 90名
(修了生:83名、個人:7名)
- 代表者氏名 上田 宏幸

● あゆみ(設立から現在)

平成2年11月20日

SA 連絡協議会 高槻支部を設立

SA 高槻支部会則を制定

平成3年 高槻市社会協議会に登録

高槻ボランティア連絡協議会に加入

平成10年「社会福祉の促進に貢献した功績」

にて、大阪府知事賞を受賞

平成12年「いきいき歌体操」サークル立上げ

平成14年「わいわいクラフト高槻」サークル
を立上げ

平成16年 名称「シルバーアドバイザー高槻」
に変更

平成20年「第1回 親子手作り工作教室」開校

(対象者:幼稚園児から小学6年生)

男性料理教室「ご馳走クラブ」開校

(男性の自立と会員の交流を深める)

平成21年 会則を改定して SA 未受講者にも

「個人会員」として入会の窓口を広

げ、会員の拡大を図る

9月「厚生労働大臣賞」を受賞

長年にわたりボランティア活動を通

じて、社会福祉の向上に貢献して

きた功績への評価

平成22年「シルバーアドバイザー高槻20周

2月 年記念の集い」開催

● 会員数の推移

年度	代 表 者	会 員 数	入 会 (総数修了者)
平成 2年	寺田利治	24	1期12名(16) 2期12名(15)
平成 3年	〃	24	3期2名(8)
平成 4年	〃	27	4期3名(14)
平成 5年	〃	36	5期9名(12)
平成 6年	〃	37	6期5名(17)
平成 7年	〃	32	7期5名(12)
平成 8年	〃	37	8期5名(16)
平成 9年	〃	34	9期2名(13)
平成10年	〃	34	10期7名(17)
平成11年	〃	38	11期3名(10)
平成12年	〃	44	12期5名(9)
平成13年	〃	48	13期4名(15)
平成14年	〃	42	14期9名(14)
平成15年	岡崎健治	64	15期22名(24)
平成16年	石井定雄	55	16期3名(21)
平成17年	才木節雄	67	17期13名(17)
平成18年	田村義雄	77	18期18名(20)
平成19年	上田宏幸	75	19期13名(24)
平成20年	〃	80	20期6名(11)
平成21年	〃	90	21期9名(6) 個人7名



厚生労働大臣賞



歌体操研修会



親子おもちゃ作り教室

SA 守口・門真の会

名 称 シルバーアドバイザー守口・門真の会
設立年月日 平成 16 年 5 月 10 日
会 員 数 27 名
代表者氏名 幸田 益光

あゆみ（設立から現在）

北河内支部より各 7 市の行政縦割り活動への移行に伴い組織替えにより、門真市に登録 3 グループを 1 グループにまとめた。門真市・守口市の合併協議中だったので、守口市在住の方にも呼びかけ総会を開き [SA 守口・門真の会] として発足した。合併が出来なかったが名称はそのまままで現在に至る。平成 16 年

5 月 10 日 SA 守口・門真の会として会員 21 名で発足。門真社協ボランティアルームで毎月定例会開く。

老人施設訪問を開始した。門真市ボランティア、フェスタに参加する。

平成 17 年 会員 26 名

世代間交流活動・小学校のおもちゃ作り・老人福祉施設で歌体操、マジックで訪問活動に取り組み成果を挙げる。福祉施設で手作り紙工品作りも順調に進んで大変歓迎され喜ばれている。

平成 18 年 会員 23 名

例年通りの活動と、あらたに市民の参加を呼びかけ、歌体操教室「タンポポ」を立ち上げ、地域の輪を広げている。行政のイベント門真祭りに参加。門真市文化祭におもちゃ作りで参加。

平成 19 年 会員 27 名

従来通りの活動をしている。SA「タンポポ」の 2 グループで一緒にボランティア・フェスタと、門真市文化祭ダンス部門に出演する。小学校の放課後クラブにおもちゃ作りで参加。

平成 20 年 会員 28 名

門真市文化会館ふれあい祭りに初参加する。小学校の放課後クラブ活動が 1 校増加。立ち上げ 5 年目で基礎基盤も出来た。初心に帰って活動内容を精査し、会員数の確保と更なる協力体制を図る。

平成 21 年 会員 27 名

従来通りの活動と、地域包括支援センターの催し企画の中で地域の皆さん方に歌体操を披露し介護予防のお手伝いをした。ボランティア・フェスタに活動写真の展示、歌体操に出演、手作り紙工品作り、門真市文化祭、おもちゃ作り、訪問活動で歌体操、踊り、手作り紙工品、マジック、に多忙である。

～ 活動事例 ～

世代間交流活動（おもちゃ、手作り紙工品）
小学校、PTA のドリームカーニバルに参加、1 年

生～6 年生の児童対象のおもちゃ作りに、何種類、数量は PTA 役員と 2, 3 回相談会、又 SA 側も会合を開き、作品 5 点数量 1 点 80～100 用意する事で決着し、担当者も決めた。当日は 2 時間で 480 名の生徒さんで用意した品完了した。SA20 名の参加者大忙しの 2 時間だった。昼食をとり解散。

学校・PTA・生徒さんより喜ばれ礼状を受取った。



一生けんめい取り組む生徒さん



参加 20 名のみなさん お疲れさま

歌体操活動

「タンポポ」歌体操も軌道に乗りボランティア・フェスティバルに出演、その成果を発揮している。介護予防に生かして市民の輪を作る活動を考えている。



揃いの T シャツでフェスタに参加

～ 今後の課題 ～

地元優先、足元を固めることが大切、SA 会員で地域グループ作りに取り組みたい。

手作り紙工品作りのグループを作る。
高齢者社会が続けば施設が増加するその対応は施設訪問活動が増えればボランティアの人員不足、市民の入会を求めて補充する努力が必要になる。

S A 寝屋川連絡会

名 称 シルバーアドバイザー寝屋川連絡会
 設立年月日 平成 17 年 4 月(再編)
 会 員 数 23 名
 代表者氏名 森田 展生

【歌 体 操】



ふれあい元気体操 (健康音楽体操)

あゆみ (設立から現在)

シルバー通信 35 号「15 周年記念特集号」発行以降 H17 年 3 月を以って S A 北河内支部は従来の修了期別の横組織から行政区割りの縦組織となり S A 寝屋川連絡会が再発足した。

以後活発な活動を行い、特に「寝屋川市立児童館(エスポアール)」を中心に市内の保育園・幼稚園・小学校で「手づくりおもちゃ」「木工教室」等により子どもたちと交流を行っている。

～ 活動事例 ～

各種施設を訪問し、ふれあい元気体操(健康音楽体操)やマジック・落語等によりふれあい活動を行っている。

【手づくりおもちゃ】



上手にできたでしょう



お風呂屋さんにてマジック

「手づくりおもちゃ」で国際交流

(9 期国際 戸川義隆氏)

タイ南部タラン市にて、現地人の家に 20 日間滞在、その間 5 つの小学校、2 つの幼稚園でおもちゃづくりとマジックをしてきた。日本から持参した材料で、紙とんぼ、ぶんぶんこま、がりがりとんぼ、ストロー飛行機等を作った。子どもたちは学校外部からの客人による歌や遊戯の指導、おもちゃづくり等が面白いの目を輝かせ取り組んでくれた。

【木 工 教 室】



私にもできるもん



ぶんぶんこま完成 (タイ小学校)

S A ひらかた

名 称 シルバーアドバイザーひらかた
設立年月日 平成 17 年 4 月 11 日
会 員 数 32 名
代表者氏名 子川 智康

あゆみ (設立から現在)

北河内地区の S A 修了生は、修了年次毎のグループで活動していました。(現在も一部続いています) 2005 年に枚方在住者を中心とした「S A ひらかた」を結成し活動を始めました、S A 修了生以外の加入者は現在 1 名です。

～ 活動事例 ～

1. 平成 17 年から継続的に行っている活動

複数の小学校で毎月 1 回程度、ふれ愛フリースクエア(土曜日)でおもちゃ作りの指導
各種老人保健施設(3～4カ所)のふれあい訪問活動(毎月4～5回程度)
地域の各種イベントに参加
地域在住の外国人とか一般の方との交流イベント(歌など)をプラネットと共催
毎月第2月曜日に定例会を開催し、情報交換とかおもちゃ作りなどの研修



小学校のおもちゃ作り授業の風景



きららでのおもちゃ作り指導

- 平成 18 年以降に開始し継続している行事
小学校の 1～2 年生対象(合計 6 クラス)に、おもちゃ作りの授業(2 授業時間)を行う:平成 18 年～
枚方市の施設「きらら」で、こども対象のおもちゃ作り(年間 5 回):平成 18 年～
留守家庭児童会の指導員(120 名程度)におもちゃ作りを指導:平成 20 年～
その他、不定期な各種活動



留守家庭児童会の指導員におもちゃ作り指導

～ 今後の課題 ～

新会員の確保と S A ひらかた全員が楽しめる各種イベントの拡大が必要と考えています



ラポール祭りでおもちゃ作り指導

S A 交野連絡会

名 称 シルバーアドバイザー交野連絡会
 設立年月日 平成 16 年 4 月
 会 員 数 23 名 (10~21 期)
 代表者氏名 八重尾 徹 (18 期国際)
 定 例 会 玉手箱として毎月第 3 木曜日



交野市立中学校でディスコン指導

【矢車草】 会員 S A 修了者 5 名含む 17 名。
 * 車椅子ダンス 障がい者、高齢者施設を月 3~4
 回訪問、練習月 3 回



みんなで楽しく車いすダンス

【HAND】 会員 S A 修了者 5 名含む 29 名。
 * 歌体操サークル 高齢者施設、デイサービス、
 地域のふれ合いサロン等で毎月 30 回前後の
 活動依頼有り。寝たきりにならない、させない、
 つくらないがモットー。

【系ぐるま】 会員 S A 修了者 5 名含む 31 名。 *
 介護服制作 寝たきりの人、機能障がいを持った人、
 高齢者の人に、着やすい、着せ易い衣服を工夫制作、
 亦改良、寸法直し等に応じ、活動拠点ボランティアセンターには
 多数見本展示している。

【PLANET】 会員 S A 修了者交野 5 名 枚方 5 名。
 S A 枚方と共催で近隣在住外国人を招聘し日本文化の紹介や
 歌声プラザを開催毎回 50~80 名を集客し好評である。

【日本語プラザ】 会員 S A 修了者 4 名含む 20 名。
 近隣在住外国人に対する日本語支援、現在学習者 15 名、
 月曜、金曜クラス開講。

以上のようなボランティア活動に会員全員が真剣に取り組み、
 どのサークルも SA 修了者がリ - ダーシップを発揮しながら活動している

あゆみ (設立から現在)

平成 16 年 4 月 交野市在住の SA 修了生有志により「SA 交野連絡会」を設置、その後、さらに地域密着型の活動が必要との認識から、活動の在り方につき検討を重ね市内在住、全 SA 修了生に呼びかけ平成 16 年 11 月「SA 交野」を設立。会員 16 名。

平成 17 年 3 月より SA 修了生以外で趣旨に賛同される方が参加出来るよう募り、活動拠点を市施設ボランティアセンターに移し“おもちゃ作りとニュースポーツ”『玉手箱』というグループ名で市民ボランティア活動団体として登録申請認定される。平成 17 年 4 月会員 18 名、その後 18 期 1 名、19 期 1 名、20 期 4 名、が入会、ここまでは、代表として河野 良氏 (16 期地域) が設立から多大なお世話頂き勇退される。21 期 2 名の修了者が入会し現在 23 名の会員である。

~ 活動事例 ~

【玉手箱】 会員 S A 修了者 20 名含む 42 名。

* 手作りおもちゃ 活動場所：毎月第 2 土曜日市施設、交野祭り、七夕まつり、文化祭、介護・老人施設、小・中学校、老人会等で定期、不定期に依頼有り参加している

* 演芸 マジック、落語、語り部、銭太鼓、南京玉すだれ、唱歌、

* ニュースポーツ スカイクロス、ディスコン、

* 頭の活性化 『源氏物語』ミニ講座、「おもしろ算数パズル塾」

演芸、ニュースポーツは、常にスキル UP の為練習をし、依頼先の要望に従い参加している。



毎月定例 市施設でのおもちゃ作り

S A 四條畷

名 称 シルバーアドバイザー四條畷
 設立年月日 平成 16 年 11 月 24 日
 会 員 数 7 名
 代表者氏名 篠田 實

8 月号 篠田 實、 9 月号 島 由紀子、
 2 月号 福永 正二

あゆみ (設立から現在)

平成 16 年

第 1 回(平成 16 年度)設立総会開催 4 名
 リーダー福永正二氏選出 会則の制定(11 月)。
 ディスコン体験講習会開催, ボランティア「すま
 いる」の移送サービスに参加, 「凧づくり」指
 導協力(12 月)。

平成 17 年

会のモットー制定 「ゆっくり・やまず・つ
 づける」、市主催の「ふれあいサロン」参加、デ
 イハウス「さらんか」に参加(1 月)。市民憲章推
 進協議会入会(4 月)。田原台 5 丁目子ども会主
 催イベント参加(5 月)。「子どものあそび広場」
 運営協力(9 月)。「市民の集い」に参加(10 月)
 田原小学校 1・2 年生対象に伝承おもちゃ作り
 指導(11 月)。「凧づくり」講習会開催(12 月)。

平成 18 年 府「放課後児童クラブ指導員研修会」

参加(2 月)。市文化協会に入会(4 月)。特養施
 設・府立四條畷荘慰問(7 月)。打上幼稚園文化祭
 に参加、なわてふれあい教室指導員研修会開催(9
 月)。市民憲章推進協議会「市民のつどい」参加(10
 月)。四條畷市文化祭参加、岡部保育所「おたのし
 み会」参加、田原小学校 1 年生に伝承おもちゃづ
 くり指導(11 月)。「凧づくり」講習会開催(読売新聞
 記載)、「赤い羽根」共同募金活動に参加(12 月)。



18-9-6 幼稚園文化祭にてマジックショー

平成 19 年 なわてふれあい教室指導員研修会開催(7
 月)。すこやかネット主催「子どもの夢」に参加、
 「市民のつどい」に参加(10 月)。四條畷市文化祭参
 加、田原小学校 1 年生に伝承おもちゃづくり指導(11
 月)。凧づくり講習会開、「赤い羽根」共同募金活動
 に参加(12 月)。

会員の活動内容が市広報紙に掲載される

平成 20 年 「子ども教室」まつり参加(3 月)。第 5
 回総会で第 2 代代表篠田 實氏選出(4 月)。
 田原台 2 丁目子ども会主催イベント指導参加(6 月)。
 なわてふれあい教室指導員研修会開催(7 月)。「夏
 休みキッズランド」に参加協力(8 月)。「ボランテ
 ィアフェスティバル」に参加(9 月)。すこやかネット
 主催子どもの夢に参加、「市民のつどい」に参加(10
 月)。四條畷市文化祭参加(11 月)。「なわて大好
 き」環境フォーラムに参加、「凧づくり」講習会開
 催(市広報裏表紙記載)、「赤い羽根」共同募金活動
 に参加(いきいきチャレンジ 21 年第 41 号に掲載)
 (12 月)。



20-12-13 タコづくり

平成 21 年

「子ども教室」まつり参加、「楠公まつり」に参加(3
 月)。なわてふれあい教室指導員研修会開催(7
 月)。「ボランティアフェスティバル」に参加(9 月)。
 「市民のつどい」に参加(10 月)。S A 四條畷 創
 立 5 周年記念誌「和」発行、四條畷市文化祭参加、
 「2009 ふれあいフェスタ」に参加(11 月)。
 「凧づくり」講習会開催、「赤い羽根」共同募金活動
 に参加(12 月)。



創立 5 周年記念誌「和」発行

S A大東の会

名 称 シルバーアドバイザー大東の会
 設立年月日 平成 14 年
 会 員 数 12 名
 代表者氏名 吉川 勇
 歴代役員

年度	会長	副会長	会計
16～17 年度	山岡 昭雄	吉川 勇	吉川 勇
18 年度	吉川 勇	山本和子	山本和子
19 年度	吉川 勇	高宮 紘	山本和子
20～21 年度	吉川 勇	池田準二郎 野口紀子	山本和子

あゆみ（設立から現在）

設立は平成 14 年、S A13 の会員と共に、大東市ボランティア団体へ登録（仮）して活動を始めたが大東市居住者は 3 名であった。その後 18 期生及び趣旨賛同者を得、連協よりの指示もあり 18 年に正式申請を行い本格的に大東市内で活動を開始した。年を経て 19～21 期生の加入があり 12 名の会となった。少人数ではあるが会員は明るく、協力的、意欲的、すばらしい仲間と自負し、誇りにしている。会として積極的、主導的な活動とおもうが、未だ力不足であり要請を受けての活動を原則としている。しかし、平成 20 年度は 80 数回の活動を実施してきた。本年度も数多くの要請を受け頑張っている。

～ 活動事例 ～

本会の主活動は 小学校放課後児童クラブ・子育て支援施設・各種イベントでの伝承玩具作りと高齢者施設・地域の諸会合での歌体操・マジック等である。そのため、他の地区 S A 同様月 1 回定例会を開き、会議終了後世代間交流修了者が講師となり、玩具数種類の実技指導を行なっている。同時に簡単なマジック・歌体操を実施して各人の研鑽と資質向上に努め、要請先で自信をもって指導できるよう心がけている。

しかし、シルバーアドバイザー・S A と言っても「何」？が現状で活動の内容等知らぬ人が多々あり P R をとを考えていた時、ボランティア団体より研修会で発表する事となった。『チャンスだ』当日は会員が手分けして、次のプログラムで発表をした。

1、伝承玩具 10 数点の展示。

- 2、会の組織・活動状況の説明。
- 3、歌・歌体操を一緒にする。
- 4、簡単なマジックの披露。
- 5、伝承玩具作りのあれこれ と作品のプレゼントで終わる。短時間の発表ではあったが 好評で理解が得られたと確信している。



放課後児童クラブ 作品で遊ぶ子ども達



～ 今後の課題 ～

だが、本会としての問題点もある。世代間交流分野が多く、環境問題、在日外国人問題等 他分野修了者の力の発揮が未知である。

どのようにすべきか？ 模索している。

S A 東大阪

名 称 シルバーアドバイザー東大阪
 設立年月日 平成 13 年 4 月 1 日
 会 員 数 22 名
 代表者氏名 川中 隆志



司馬遼太郎記念館

あゆみ（設立から現在）

平成 5 年

中河内合同支部から、東大阪 29 名
 八尾 15 名、柏原 14 名の市毎に独立。中河内
 3 支部の誕生。当時の東大阪は「老人による老人のた
 めの老人ボランティア」を理念とする団体と、老
 大 修 了 者 による健康生きがい作りの S A クラブ
 (SILVER AGING)があり、夫々社協に登録、ボラン
 ティアセンターを拠点に活動していた。平成 10 年ご
 ろの S A 東大阪は、これら 2 団体に分散吸収される
 形となり、平成 11 年、独自活動停止。

平成 12 年

休会。これと前後して八尾、柏原も休会。その後支
 部再構築をとの教務の指示により 13 期 7 名と先輩
 との話し合いがもたれたが、会再会に至らず解散。

平成 13 年 4 月 1 日

13 期と賛同の先輩の方々 12 名で新組織をスタート
 し、現在に至る。



川中邸の屋敷林」

～ 活動事例 ～

市内特別養護老人センター、高齢者ディサービス
 施設等での行事援助

- ・八戸ノ里 Y M C A 喫茶でのボランティア活
 動参加
- ・ホームヘルプセンター玉美苑、みのわの里、
 その他多くの市内施設

大阪府内社会福祉法人、障害者施設、学園等
 行事サポート

- ・大阪府金剛コロニー（富田林）でのボラン
 ティア活動参加
- ・経験や特技を生かして障害者の外出介助やお
 手伝い

市内文化財保護活動、施設等清掃奉仕ボラン
 ティア活動

- ・司馬遼太郎記念館(下小阪)でのボラン
 ティア活動参加
- ・枚岡神社、枚岡公園、梅林等でのボラン
 ティア活動参加
- ・川中邸、屋敷林の保全活動(吉田駅、今米公園
 北側、都市緑地保全地区)

緑がほぼ自然のまま残された屋敷で 36 種 160
 本の樹木は「今米緑地保全地区」にされている。

<大阪みどりの百選>から

各地区での自分の校区の子供たちは自分
 達で守ろうと立ち上がっています。

- ・各団体で登下校の見守り隊がパトロールして安
 心安全な町作りの推進に参加。市内小学校の放
 課後 1 年生～ 3 年生までの学童保育に世代間
 交流活動（おたのしみ会）

～ 今後へ向かって ～

以上、時代の変化で地域のニーズとボランティアの役
 割や活動スタイルを検索しながら方向つけをしてま
 いりましょう。一人ひとりのアイデア（出来ること）
 を持ち寄って生涯学習・生涯研修で趣味や特技と色々
 な知恵を出し合い、一つの目標を持って、誰かのお役
 に立ちたいとの思いで、熱意を持って高齢者、障害者、
 子供たちと共に生きがいを持ち、楽しく、やわらかい
 人間関係を構築し、決して無理をせず社会的信頼を得
 て、メンバーも楽しんで地域の課題に継続して取り組
 んでいく。

メンバー各々のボランティア資源を機会あるごとに
 全員が楽しみながら習得し、常にボランティア資質の
 向上をはかり、身についたボランティア資源を増やし、
 いろいろな場所での活動にあわせ、それに相応してタ
 イミングよく活かしていく。

SA八尾

名 称 シルバーアドバイザー八尾
設立年月日 平成15年4月1日
会 員 数 28名
代表者氏名 二葉 登代子

あゆみ（設立から現在）

平成15年4月 実質8名で、再スタートする。
平成16年4月 八尾市ボランティア連絡会の登録団体となる。
平成16年 柏原市在住の修了者を含め、活動の幅を広げる。
平成18年10月 「シルバーリーダー養成講座」にて、講師依頼を受ける。
平成19年7月 八尾市社協主宰「ボランティアのための物作り講座」にて、講師依頼を受ける。
平成19年9月 「第1回八尾市ボランティア活動展」に参加する。
平成19年11月 文化の日表彰として、八尾市長表彰を受ける。
平成20年3月 「シルバーリーダー養成講座(上級)」にて、講師依頼を受ける。
平成20年4月 東大阪市在住の修了者も入会する。
平成20年7月 八尾市社協主宰「ボランティアのための物作り講座」にて、講師依頼を受ける。
平成20年9月 「第2回八尾市ボランティア活動展」に参加する。
平成20年秋 シルバーリーダー養成講座にて、ディスコンの指導と自然素材の物作りの講師依頼を受ける。
平成20年11月 「第1回 SA八尾ふれあい祭り」を実施し、八尾市長の来場を受ける。
平成21年秋 「シルバーリーダー養成講座」にて、ディスコンと自然素材の物作りの講師依頼を受ける。
平成21年9月 「第3回八尾市ボランティア活動展」に参加する。大阪府ボランティア連絡会河南ブロック交流会にて、講師依頼を受ける。
平成21年11月 「第2回 SA八尾ふれあい祭り」を実施し、八尾市長の来場を受ける。
大阪府ボランティア大会において、大阪府知事表彰を受ける。

～ 活動事例 ～

1. 養護老人ホームで、隔月に活動している。メンバーの持つ多様なボランティア資源を活用した活動が喜ばれて、その会場への参加者が増えている。

2. 「SA八尾 ふれあい祭り」は、一般の方々にも私達の活動を知ってもらい、楽しんでもらうことを目指して実施しているが、会員の交流の場ともなっていて、会員自身が楽しんでいる。そこに、突然の八尾市長の来場に会場がわいた。
3. 八尾市社協からの依頼により、障害者の大会での活動や、高齢者施設での活動、講習会等を行っている。
4. 毎月実施となった定例会では、会議だけではなく、後半に、研修と称して、メンバーの持つボランティア資源を紹介し、教え合っていて楽しんでいる。



知事表彰を受けて記念写真



SA八尾ふれあい祭り おもちゃ作りコーナ

～ 今後に向かって ～

「弱者の自立を支援する」というボランティアの原点を忘れることなく、「無理をしない」をモットーとしています。自らも楽しみつつ、私達SA八尾は、これからも協力し合いながら、地道なボランティア活動を続けてまいります。

S A 松原会

名 称 シルバーアドバイザー松原会
 設立年月日 平成9年3月
 会 員 数 20名
 代表者氏名 関野 伸 一

あゆみ（設立から現在）

平成9年3月 S A松原会(代表:坂東翠 福祉9)として4名で発足。

松原市社会福祉協議会ディサービスセンター NPO 法人介護支援の会ディハウス「松原ファミリ

ー」との連携で利用者様に歌体操を始める。

平成9年12月 松原保健所からの要請で松原市部落開放センターで地域高齢者を対象とした歌体操を始める。現在は街かどディハウス「ひだまり」として継続している。

平成10年11月 松原市第七中学校区の年1回のイベントにおもちゃ作りで参加し、順次他の中学校区にも広がった。

平成11年3月 松原市立恵我南小学校の土曜子供体験推進委員会に月1回のおもちゃ作りで参画する。

平成11年4月 松原市地域保健課からの依頼でB型老人センター「高見苑」で地域高齢者への歌体操を始め、それが他の老人センターへも広がった。

平成15年2月 松原市社会福祉協議会35周年記念福祉大会で「ボランティアグループ5年活動の感謝状」を受けた。

平成16年5月 松原市老人クラブ連合会と連携でB型老人センター「松南苑」で歌体操を実施。

平成19年11月 S A松原会創立10周年記念行事として、寺島龍子先生を講師に迎え、「地域ボランティアのための歌体操リーダー養成講座」を開催した。

平成20年2月 松原市社会福祉協議会40周年記念福祉大会で「ボランティアグループ10年活動の感謝状」を受けた。

平成20年4月 松原市立天美小学校の土曜子供体験推進委員会に学期1回のおもちゃ作りで参画する。

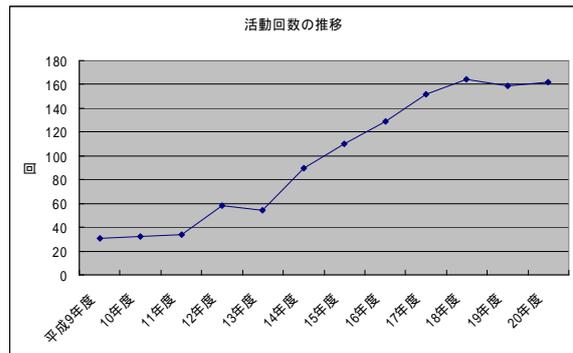


平成20年6月 松原市「高齢者の集い」に歌体操で老人クラブの皆様と一緒に参加。今後も毎年参加していく。



現在は会員数が20人になり、松原市地域保健

課などの行政、学校、社会福祉協議会、老人クラブ連合会などとの連携をしながら、市内各種の施設で歌体操（10ヶ所） おもちゃ作り（7ヶ所）で定期的に活動している。



～ 活動目標・理念 ～

いきいき歌体操を通じて、行政が進めている介護予防の一環として役立てたい。

おもちゃ作りで、小学校区を起点とした子供の安心安全作りに参画していく。

私たちのおもい

幸せのワルツ (星影のワルツの替え歌)

一度限りの 人生だ
 大事にしようよ この命
 みんなで幸せのワルツを唄おう
 この世に生まれた 幸せを
 この世に生まれた 幸せを
 明るく楽しく 生きようよ

～ 活動事例 ～

毎月1回、歌体操の普及活動の一環として市民の方が誰でも参加できる「歌体操同好会」を開催している。毎回沢山の方が参加され楽しんでいる。



S A はびきの

名 称 シルバーアドバイザーはびきの
設立年月日 平成 15 年 7 月 25 日
会 員 数 23 名
代表者氏名 松田 嘉威 (19 期健康増進)

あゆみ (設立から現在)

S A 南河内地区は、平成 2 年に南河内支部を結
平成 12 年 3 月に解散し、各地区に支部を結成す
る。

正式に S A はびきのとして 15 期生がメインと
なり 17 名にて、平成 15 年 7 月 25 日に発足する。

初代会長 荻野保次 (15 期・地域活動)
2 代会長 岡田欣一 (7 期・世代間交流)
3 代会長 植田達也 (17 期・国際交流)

～ 直近の活動事例 ～

1. 平成 21 年 2 月 14 日 ・ L I C はびきの
おもちゃ教室 木英指定店 焼芋販売
2. 平成 21 年 3 月 21 日 ・ 市立綾南の森
春休み小学生おもちゃ教室
3. 平成 21 年 5 月 5 日 ・ 市民フェスティバル
焼芋出店
4. 平成 21 年 7 月 18 日 ・ L I C はびきの
エコー 2 0 0 9 おもちゃ教室
5. 平成 21 年 10 月 11 日 ・ 市民体育祭
石川スポーツ公園 焼芋出店
6. 平成 21 年 11 月 3 日 ・ ふれあい祭り
羽曳ヶ丘小学校 折り紙教室
7. 平成 21 年 11 月 20 日 ・ 藤井寺社協
S A 南ブロック 歌体操

【同好会】

- ・ 歌体操 同好会
- ・ ディスコン 同好会
- ・ おもちゃ 同好会
- ・ 食と緑 同好会



ディスコン 同好会



エコー 2 0 0 9 21.7.18



老健施設 歌体操 21.7.22.



市民フェスティバル準備 21.5.5

S A 藤井寺

名 称 シルバーアドバイザー藤井寺
設立年月日 平成 16 年 10 月 5 日
会 員 数 11 名
代表者氏名 中村 壽太

～ 活動事例 ～

1, 藤井寺市広報募集 (S A 主催 / 5 教室)



- ・ストレッチ体操 (介護予防) 講座
- ・おもちゃ作り教室、 ・パソコン教室
- ・ディスコン体験教室
- ・お手玉づくり / 遊び (認知症予防) 教室

あゆみ (設立から現在)

S A 南河内地区から平成 15 年 7 月 S A はびきの
が結成され、翌年平成 16 年 10 月 SA 藤井寺として
独立。

平成 16 年 10 月

S A はびきのより藤井寺在住 (16 期生が主体とな
り) 6 名にて、平成 16 年 10 月 5 日に発足する。

会長 中村 壽太 (16 期・地域活動)

平成 17 年 4 月

大阪府 S A 連協に加盟 ディスコン普及イベ
ントを、藤井寺ジャスコで開催。

平成 18 年 1 月

藤井寺市社協 ボランティア連絡会加入、イ
オン・イエローキャンペーン協賛参加、定例始める。

平成 19 年 6 月

藤井寺市社協 ボラ連 会長に就任 (SA 中村会長)
藤井寺ふくし健康まつり、実行委員参加 (SA 藤井
寺)

平成 20 年 3 月

藤井寺市広報に S A 主催の 5 講座 (教室)

公募・実施年 2 回 (3 月、9 月)

藤井寺ふくし健康まつり、実行委員長 (SA 藤井寺
会長)

平成 21 年 3 月

藤井寺市社協 ボラ連副会長に追加就任 (SA 藤井
寺)

会長、副会長を担当 (S A 藤井寺) 社協理事 (中村
会長)

平成 22 年 1 月

藤井寺市福祉関連互礼会 発起人代表中村会長
(S A 藤井寺) 市長、市議員、福祉関係者参加

～ 今後の課題 ～

- ・活動資金の確保企画検討、
(事例 : フリーマーケットバザー開催、NPO 研究、)
- ・イベント時スタッフ確保 正会員・準会員会則変更
- ・社協とのさらなる連携による、活動計画。
- ・藤井寺市のリーディング ボランティアチームを目指す。
- ・コミュニケーションボラを目指す (楽しむ・誕生会
等)

2. イオン福祉キャンペーン協賛参加



- ・毎月 11 日 イエローレシートキャンペーン参画
(ジャスコ藤井寺にて)
- ・現在登録団体中トップ回収を継続中

3, 藤井寺ふくし祭り出店 / 出場



- ・子供おもちゃづくり体験コーナ
- ・ディスコン体験コーナ
- ・南京玉すだれショー、 ・マジックショー
- ・お手玉づくり / 遊び体験コーナ

S A 富田林

名 称 シルバーアドバイザー富田林
 設立年月日 平成 13 年 4 月 1 日
 会 員 数 22 名
 代表者氏名 平田 常二

あゆみ（設立から現在）

「S A 富田林」の設立以前は、南河内各市町村の S A グループが毎月集まり、地区一帯で「S A 南河内支部」として活動をしていましたが、平成 12 年度末に「S A 南河内支部」は発展的解散となりました。

平成 13 年 4 月、富田林市と河南町の私たちのグループは「S A 富田林」を設立、独自の活動を始め、グループ組織を継続して参りました。当初、各メンバーは毎月、代表者の小田さん宅に集まり「S A 連協」からの連絡事項の伝達、各グループの活動報告、相互の情報交換等を行いつ、活動を継続してまいりました。以後、S A 修了者の地区 S A への入会は每期続き、メンバーも増えました。メンバー全体の参加活動としては、毎年 11 月 23 日(勤労感謝の日)に市主催の「富田林市民ふれあい祭り」が石川河川敷グラウンドで開催されます。毎年 S A 富田林は『手作りおもちゃの風ぐるま作り』で参加しています。来場の皆さんには大好評で、いつも子供や大人が順番を待つ列ができる在様です。

今年度も準備をしましたが、残念ながら南河内地区のインフルエンザ流行の為、実施 1 ヶ月前に急遽「ふれあい祭り」は中止となり、残念でした。大きなイベントに於ける活動は「S A 富田林」を広く、多くの皆様に認識して頂けるよい機会だと思しますので、来年は「より素晴らしいイベントにしたい」と話し合っています。

～ 活動事例 ～

「S A 富田林」では S A 講座受講時の同期グループによる活動組織をそのまま継続しながらの地域活動で、各期生が自由に、独自の特性を生かしつつ、個性溢れるその活動は、素晴らしいものが有ると思えます。

- 9 期生 精神障害者へのサポート活動、毛筆指導、スポーツ活動交流 等
- 12 期生 府立金剛コロニー(知的障害者施設)への毎月 2 回の慰問交流活動や折り紙教室の指導活動、ネパールの子供達への里親活動に参加、現地訪問交流や援助活動 等
- 12～13 期生 独居高齢者・障害者への在宅者配食活動や友愛訪問活動、運転ボランティア、学童への地域見守り隊活動
- 15 期生 在日外国人や国際結婚ファミリーとの国際交流やイベント活動

- 17 期生 「らんらんらん」グループ結成、学童との交流活動
- 18 期生 「トン・トイクル」グループ結成、放課後の子供教室推進事業に参加、スポーツや文化活動による子供の居場所づくりに活躍
- 12～21 期生 富田林には「くすのき塾」というシニアによる純民間人の活動団体があるが、各自が個々に、その組織運営や得意分野の指導活動に参加。シニア層の理想社会実現を求めて個性溢れる素晴らしい活躍を行っている。



～ 今後へ向けて ～

私たちの同期グループによる活動の積み重ねを大切に育てながら、相互に連携を図りつつ、お互いの人格を認め、何時までも仲良く力を合わせ、明日の富田林の地域環境の向上の為の活動に取り組んで参りたいと思えます。



S A河内長野

名 称 シルバーアドバイザー河内長野
 設立年月日 平成3年4月
 会 員 数 23名
 代表者氏名 元坂 道幸

あゆみ（設立から現在）個々の事業は活動事例

- 平成3年4月
S A南河内支部「河内長野地区会」として発足。
- 平成14年4月
「シルバーアドバイザー河内長野」に改名。
- 平成16年1月8日
S A南河内地区活動報告会(S A松原、S A富田林、S A河内長野)開催 於：河内長野ノバティ

～ 活動事例 ～

1. 楠の木ふれあい塾

平成13年4月13期生終了者7名で発足。14年3月に大阪府から助成金を受けた。その後の活動は「パソコン教室」(週3回)、「太極拳教室」(週1回)、「玩具作り教室」(不定期)である。現在は4名で運営・活動中。
 [太極拳は18年地元有志に移管、パソコン教室は22年3月地元メンバーに縮小移管]



2. いきいき歌体操

平成13年5月から千代田公民館で「歌体操教室」を、以降、三日市公民館にも教室を広げる。
 現在、千代田公民館(月2回)は約30名、三日市公民館(月1回)は約20名が健康維持と楽しみを求め活動している。
 他に「福祉施設」などに出向いて慰問活動している。



3. ふれあい電話

平成14年9月に発足し7年を経過。金剛カトリック教会の一室を借りて毎週木曜日に、会員数名で一人暮らしの体が弱く、一人で外出できない年寄り宅約10名に、気楽に「お元気ですか」と電話を掛けて喜ばれている。



4. 天見生きがいサロン

平成17年4月に発足。高齢者の生きがいを求めて活動中。「中高年者のパソコン教室」(月4回) 対局指導及対戦競技の「囲碁将棋のサロン活動」(月8回) また、共同栽培・貸農園による自主栽培の「農園栽培活動」を行っている。



5. 天見子ども自然と遊びの教室

平成17年5月に発足。教室は主催が教育委員会・NPO法人ナック等、天見地区で月1回スタッフとして数名で参加。



21年は、野山で宝物探し・ネイチャーゲーム・竹を切ってコップ・貯金箱作り・水生生物観察・川遊びと魚釣り・どんぐり拾いとクラフト・落ち葉で焼き芋・しめ縄作りなどを行った。

6. めだかの学校

平成18年の春から河内長野シニアカレッジ「めだかの学校」を創設した。



高齢者が、楽しく学び、心身を鍛練し、社会参加を促すことで、明るい地域社会の形成に寄与する目的で、下記行事を開催中。

- (1) 知的能力・身体能力の維持向上に(毎週金曜日)
 - ア、講習会、講演会(各層の講師を招き)
 - イ、音読教室(和歌・詩・漢詩)、算数教室
 - ウ、健康体操(太極拳・ヨガ)
- (2) 特殊講座、レクリエーション活動(春・夏・秋・冬)
 - 最近ではハイキング・盆踊り講習・バーベキューノ芋堀・史跡めぐりなど。

7. 放課後子ども教室「おもちゃ作り」

平成19年4月に市社会教育課から依頼を受け、数名が天見小学校に5月から月1回、又、石仏小学校にも20年10月から月1回参加。



21年はこま・風車・トンボ・飛行機・びっくり箱・人形作りなどを教えた。

8. 慰問事業

- (1) 寿里苑加賀田デイサービスに平成16年から月1回。お琴・新舞踊・マジック・腹話術・詩吟・歌体操・手作りおもちゃ・ハーモニカなどで慰問している。
- (2) 特養「希望の丘」に(1)を前後し今まで50数回。入所者は認知度4以上全員車椅子の人に、いきいき歌体操・ハーモニカの愛唱歌などで慰問している。
- (3) ふれあいの丘長野敬老院の裏庭広場で、7年前から春の観桜会・秋の敬老祝賀会に参加。毎回数名が入居者及び利用者に付き添いまた車いす介助もしている。



9. その他

市内の行事で平成12年から「市民まつり」「ボランティア・市民活動フェスティバル」に、その後「ボランティア活動体験・見学プログラム」「加賀田フェスティバル」などにも「おもちゃ作り」「歌体操」などで毎年、積極的に参加している。

堺 S A

名 称 堺シルバーアドバイザー
連絡協議会
設立年月日 平成 元年 8月 1日
会 員 数 80名
代表者氏名 堀 富治

あゆみ (設立から現在)

発足当時は講座受講時の「泉北」「泉南」地区居住メンバーで構成されていたが、平成3年、泉北地区(堺、和泉、高石、泉大津、忠岡)居住者は泉北支部として登録し、以後「泉北と泉南」の二つの支部に分かれた。

堺市鳳にあった「泉北府民センター」を利用していましたが、平成11年11月堺市社会福祉協議会にボランティア会員登録を果たした。これより、安定して幹事会・定例会・総会等の開催には福祉館内施設は可能になり、活動の推進に弾みがつくことになった。

平成12年4月定例総会において、会の名称を「大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会泉北支部」から「堺シルバーアドバイザー連絡協議会(略称堺 S A)」に改称した。

～ 活動事例 ～

みどりのつどい

毎年5 または 6月堺市南区西原公園で、「子どもたちに故郷を持ってもらおう」と泉北ニュータウン学会主催で開催されるフェスティバル。堺 S Aも地域振興に貢献しようと参加した。平成21年は新型インフルエンザ感染予防のため中止



おもちゃ作り、遊び提供 08-5-17



野外ステージで歌体操 08-5-17

さかいボランティア・市民活動フェスティバル
堺市社会協議会は福祉大会を盛り上げる目的でボランティア・市民活動フェスティバルを開催。今年第7回で10月24日に実施され

参加者：3,850人

ボランティア等の参加：155団体

堺 S Aは ・活動パネル展示 ・活動プレゼンテーション
・喫茶 ・折り紙 ステージでの歌体操に参加した。



折り紙指導 09-10-24

東区ふれあい文化祭

11月22日(日)東区北野田東文化会館で開催。おもちゃつくりと遊びを提供した



表彰状

- ・表彰状：堺市長より 平成18年7月
- ・感謝状：大阪府共同募金会より平成18年11月
- ・感謝状：堺市社会福祉協議会より平成18年10月



いずみ S A

名 称 いずみシルバーアドバイザー
連絡協議会

設立年月日 平成 17 年 5 月 26 日

会 員 数 18 名

代表者氏名 中川 明子

あゆみ（設立から現在）

私たち S A 養成講座 17 期生（南部 1 期）は地域別交流活動、S A 泉州グループ（和泉市 10 名、泉大津市 3 名）で講座終了後も活動を続けていきたいという思いから「いずみシルバーアドバイザー連絡協議会」を発足し、現在にいたっています。

～ 活動事例 ～

目標 活動内容

ボランティア活動を通じて、すべての人々が安心して暮らせる地域社会を目指して

バルンアート

おもちゃづくり

いきいき体操

パソコン指導

等を通して、心と心のふれあいコミュニケーションを大切に、無理をしないで「楽しく、ゆっくり」を合言葉に専攻コースで学んだ事や特技を活かして各々がグループや個人でボランティア活動の目標に向かって活動しています。乳幼児の施設、各施設、小中学校、地域での各種事業に参加し交流を深めています。



バルンアート指導者講習会



バルンアート指導者講習会

～ 今後の課題 ～

会員数が減少傾向にあるため、今後の受け入れを考える時期である。設立後 4 年を迎え地域にも根を下ろしつつあるため、「楽しく、ゆっくり」で交流を深め、また、新しいものにも取りくんでいきたい



光明池南小「伝承遊び」

S A 泉州南

名 称 シルバーアドバイザー泉州南
設立年月日 平成 19 年 4 月 11 日
会 員 数 30 名 (10~21 期生)
代表者氏名 大津 豊

あゆみ (設立から現在)

平成 13 年 7 月 1 日 S A 泉南から S A 泉州に変更新規発足

平成 19 年 3 月 14 日 S A 泉州解散

平成 19 年 4 月 11 日 大阪府シルバーアドバイザー泉州南(略称 SA 泉州南)として会員 12 名で設立新規発足する。

平成 19 年度 会員 12 名

泉佐野市、阪南市を基点に地域世代間交流活動、小学校での伝承おもちゃ作り指導に積極的に取り組み成果を挙げる。

平成 20 年度 会員 21 名

会員の活動拠点が堺市から岬町までの 7 市 2 町に亘り各地域での活動が活発になった。

平成 21 年度 会員 30 名

従来の活動の他に地域よりのイベント等の参加要請(おもちゃ作り他)が多くなって来た。

~ 活動事例 ~

当地区は複数の行政単位の会員によって組織されたグループで構成されている団体です。

あそびの寺子屋会

泉佐野市を基点に世代間交流活動をしている泉佐野市社会福祉協議会と連携した「ディスコン」講習会を開催している。

古今遊びクラブ

阪南市の小学校での伝承おもちゃ作りの指導

おずねっと

泉大津市を中心にしてパソコン等の支援活動

まちづくり岬

岬町を中心に「大人の林間学校」の開講

みんなでアンバマイカ

熊取町を中心に世代間交流活動

シルバー愛・Sensyu

泉南市の厚生施設での環境整備ボランティア

個人活動 (地域において活動中)

子どもの居場所づくり、歌体操、ディスコン

子育て支援、地区福祉委員、子ども見守り隊他



あそびの寺子屋会



おずねっと パソコン教室



まちづくり岬 大人の林間学校

~ 今後の課題 ~

会員は第 2 の人生を競い合うのではなく、自らの生きがいつくりのために、お互いを信頼し相互支援を大切に考え、個人及びグループでのボランティア活動を続け、地域の行政機関や関係団体との連携を図り、活力ある地域福祉活動に貢献すると共に、大阪府シルバーアドバイザーの知名度の向上に努めたい。

地域のボランティアさんを取り込んで、地区の活性と継続につなげたい。

【編集後記】

ここに SA 連協 20 周年記念誌号発刊出来ました事、感慨に堪えません。年度当初に配分された予算では、通常のシルバー通信と同様に A3 を二つ折りにした 32 ページ程度のもので、保存版記念誌には程遠いものでした。しかしながら、役員会・理事会の強い後押しと、地区 SA の皆さまの協賛金という形でのご協力をいただき、何とか発刊に漕ぎ着けることができました。

なかなか発行予算が固まらず、実質的に紙面構成に取り掛かれたのは 10 月という、発行までの限られた期間内での編集作業でした。このため、地区 SA の紹介に寄稿いただきました皆さまには、限られた時間と限られたページ内でのお願いせざるを得ず、ご苦勞をお掛けしましたこととお詫びすると共に、有り難くお礼申し上げます。

本記念誌号の巻頭座談会「SA 昨日・今日・明日」は、理事長の発案を広報委員長、事務局の協力の下で設定し、広報誌部で原稿にしたものです。

2 時間半余の録音を限られたスペース内に文章化することは、素人集団である我々にとっては大変な難作業でしたが、創立時の苦勞話や地区活動での本音トークなど出席された方々の、熱い想いの一端がお伝えできたのではないかと自賛しております。

本記念誌号の発刊に当たりまして、大阪府知事、大阪府高齢者大学校理事長、大阪府地域福祉推進財団理事長の皆さまからご祝辞を賜りました事を感謝して、ここに厚くお礼申し上げます。

SA の更なる発展を願い、25 周年、30 周年記念誌号と発刊を重ねられることを心より希望いたしますと共に、会員の皆さまのご健康を祈念し感謝のことばとさせていただきます。

広報誌部会長 服部 早樹子 (19 期福 IT 大阪)

20 周年記念誌号編集委員

下川 順夫 (17 期国際 高槻)

野村 匡則 (17 期地活 はびきの)

田原 美佐穂 (19 期福 IT 吹田)

松本 勉 (20 期福 IT 茨木)



素敵な旅のお約束！！

株式会社 88観光

〒530-0047 大阪市北区西天満 3-3-10

TEL06-6311-8814 FAX06-6311-8815

<http://88kanko.co.jp>

営業担当 吉村治朗



赤い羽根 大阪府共同募金会より助成金を戴く
SA 連協歌体操介護予防ボランティア養成に対してー

SA 連協の歌体操活動にたいして表題のように大阪府共同募金会より（共同募金配布金）ボランティア支援金を戴きました。これは大阪府 SA 連協のボランティア養成活動を支援するためのものです。SA 連協としては、この助成金を有効に使い歌体操ボランティアを養成する活動を行います。

中央での交流研修活動や各ブロック別で行う地域主体とした交流研修会等を計画しここで習得した歌体操のスキル（技術）を各 SA の高齢者施設での歌体操ボランティア活動に生かす事を目的にしています。大阪府下の歌体操を大きく広げ、歌体操人口の増加を図り、高齢者施設での歌体操ボランティアの人材養成を計画しています。



Silver Adviser

発行人 大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会
連絡先 〒540-0012 大阪市中央区谷町 5 - 4 - 1 3
大阪府谷町福祉センター
TEL. 072-753-9087 (理事長宅)
URL <http://sa-renkyo.com>